

2023年度

JICA九州 教師海外研修

研修国：ベトナム 



2023年度 教師海外研修 研修概要

教師海外研修概要	2
ベトナム社会主義共和国	3
研修参加者	4
研修報告	5
研修全体を振り返っての感想	20

2023年度 教師海外研修 授業実践報告

佐賀県 基山町立若基小学校 河室 陽子 「世界を知ろう・世界とつながろう ～地球の一員として、私達にできること～」	26
熊本県 熊本市立泉ヶ丘小学校 熊田 和幸 「未来のためにわたしがやりたいこと ～ベトナムのくらし調べを通して～」	34
長崎県 私立長崎精道小学校 一ノ瀬 めぐみ 「ベトナムから始まる国際理解」	42
佐賀県 佐賀市立城西中学校 久米 勇一郎 「国際理解に大切なこと」	54
大分県 大分県立情報科学高等学校 宮脇 滉平 「マーケティングのひろがり」	60
福岡県 福岡県立大牟田北高等学校 松田 倫明 「地理探求のとりくみ ―世界の衣食住を理解する―」	64
佐賀県 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 砂田 葵 「こうなったらいいな！私たちの未来の食卓」	70

教師海外研修概要

教師海外研修とは

開発途上国の現状や国際協力の現状について、実際に途上国を訪問し、開発途上国の現状・課題、日本との関係、国際協力の現場を体験することで、国際理解教育／開発教育の意義について理解を深め、継続的に国際理解教育／開発教育の実践を行うことを目的としています。また、研修参加者同士の意見交換や知見の共有を通して、研修終了後も継続してさらなる国際理解教育／開発教育の推進を図ることも目的としています。

2023年度 教師海外研修の流れ

- 2023年 5/31(水) ● 応募締切
- 6/21(水) ● 結果通知
- 7/1(土) ● 第1回事前研修 @オンライン
- 7/29(土) ● 第2回事前研修 @JICA九州
- 7/30(日)～8/5(土) ● 海外研修 @ベトナム
- 8/26(土) ● 帰国後研修 @オンライン
- 9月～11月 ● 授業実践 @各学校
- 2024年 1/27(土)・28(日) ● 授業実践報告会 @JICA九州





- 面積：32万9,241平方キロメートル
人口：約9,946万人（2022年、越統計総局）
首都：ハノイ
民族：キン族（越人）約86%、他に53の少数民族
言語：ベトナム語
宗教：仏教、カトリック、カオダイ教他
通貨：ドン（Dong）
主要産業：農林水産業（GDPに占める割合11.88%）、鉱工業・建築業（同38.26%）、サービス業（同41.33%）
在留邦人数（外務省海外在留邦人数調査統計）：21,819人（2022年10月現在）
在日ベトナム人数（法務省在留外国人統計）：476,346人（2022年6月現在）
教育制度：初等・中等教育が6歳から始まり、
小学校5年間、中学校4年間、高等学校3年間の12年制。
小・中学校の9年間は義務教育。



研修参加者



1

戸崎 千尋

TOSAKI CHIHIRO

JICA 九州市民参加協力課
スタッフ

2

森田 路加

MORITA MICHIKA

宮崎第一中学高等学校
保健体育

3

砂田 葵

SUNADA AOI

福岡県立特別支援学校
「福岡高等学園」
栄養教諭

4

河室 陽子

KAWAMURO YOKO

佐賀県基山町立若基小学校
6年担任

5

一ノ瀬 めぐみ

ICHINOSE MEGUMI

長崎精道小学校
保健体育・情報

6

松田 倫明

MATSUDA TOMOAKI

福岡県立大牟田北高等学校
地理

7

久米 勇一郎

KUME YUICHIRO

佐賀市立城西中学校
英語

8

宮脇 滉平

MIYAWAKI KOHEI

大分県立情報科学高等学校
商業

9

原口 純一

HARAGUCHI JUNICHI

NPO九州海外協力協会
スタッフ

10

栗田 和幸

KURITA KAZUYUKI

熊本市立泉ヶ丘小学校
全教科

研修概要

- 2023年
7/1 ㊦ ● 第1回事前研修 @オンライン
- 7/29 ㊦ ● 第2回事前研修 @JICA九州
- 7/30 ㊦~8/5 ㊦ ● 海外研修 @ベトナム
 - 7/30 ㊦ DAY1 - 福岡空港出発、ハノイ空港到着
 - 7/31 ㊦ DAY2 - JICA ベトナム事務所訪問
 - 8/1 ㊦ Day3 - 小学校視察（生徒との交流・現地教員との意見交換）
JICA 草の根技術協力事業 下水処理場視察見学
 - 8/2 ㊦ Day4 - JICA 海外協力隊活動先視察
 - 8/3 ㊦ Day5 - 世界遺産ハロン湾視察
 - 8/4 ㊦ Day6 - ベトナム研修最終報告会 文化観光
 - 8/5 ㊦ Day7 - ハノイ空港出発、福岡空港到着
- 8/26 ㊦ ● 帰国後研修 @オンライン
- 9月~11月 ● 授業実践 @各学校
- 2024年
1/27 ㊦・28 ㊦ ● 授業実践報告会
- 開発教育学び合いネットワーク研修 @JICA九州

第1回 事前研修

○日程・場所 2023年7月1日（土）オンラインにて実施

○内容

1. アイスブレイク（4つの窓）
2. 教師海外研修趣旨説明、JICA 事業説明、JICA のベトナムにおける役割
3. ベトナム情報の共有（講師：JICA 海外協力隊経験者 徳永明希子氏、2018年度1次隊、
任国：ベトナム、職種：日本語教育）
4. 安全管理・健康管理のポイント、ベトナム研修のスケジュール・訪問先の情報共有、
過年度参加者からのアドバイス
5. ディスカッション（①役割分担決め、②課題のアイデア、③研修を通じて何を得たいか）
課題1：ベトナムアンテナを立てよう（日本とベトナムのつながり調べ）
課題2：授業・教材づくりのイメージを上げよう

○感想 第1回事前研修の中で、JICA の取り組みには、SDGs、アクティブラーニングなど、学校教育と深いつながりがあることを改めて知った。

次に、ベトナム情報の共有と安全管理・健康管理のポイントについて説明を受けた。ベトナムについて知らないことが多く、出発前にもっと調べたいと思うことがたくさんできた。中でも、共産党一党支配、日本企業の進出、そして現代のベトナムが抱える新たな課題については特に調べていく必要があると感じた。

続いて、ベトナム研修のスケジュール・訪問先の情報共有を行い、過年度参加者からのアドバイスを聞いた。教師海外研修先輩方からのメッセージにあった「実は日本人は日本のことをあまり知らない」という話がとても印象に残っている。日本の文化、宗教、歴史、そしてベトナムと日本の歴史やつながりについては特に知っておくべきだと感じた。長崎出身で、JICA 海外協力隊としてベトナムに派遣されていた徳永明希子さんのお話は、実際の体験に基づいたもので、交通や食事、衛生面など、気を付けるべきことが具体的で分かりやすかった。また、おすすめの場所や日本人とベトナム人の考え方や習慣の違いなど、研修のイメージが湧いてきた。

ベトナム研修に向けて、事前に調べるべきこと、現地で何を見てくるのか等この研修を通して具体的にイメージすることができたように思う。また、この日に初めて、一緒に参加する先生方の顔を見て、お話をすることとなった。研修に向けて少しずつ実感が湧いてきた。国際理解教育 / 開発教育等に興味のある先生方同士のディスカッションはとても有意義なものになった。（河室）



第2回 事前研修

○日程・場所 2023年7月29日（土）JICA九州センターにて実施

○内容

1. アイスブレイク（授業以外でのベトナムでやりたいこと・関心のあるプログラムの発表）
2. 課題1の発表：ベトナムアンテナを立てよう（日本とベトナムのつながり調べ）
 - ・ベトナムのリサーチ、身の回りの地域や日本でのベトナム探し
 - ・ベトナムの中の日本調べ、ベトナム研修に向けての情報共有
3. 教材づくり・指導案づくりのポイント
講師：福岡県飯塚市立小中一貫校穂波東校 中学部校長 猿渡和則氏
 - ・学校での国際理解教育実践例
 - ・ベトナム研修での経験をどのように教材に落とし込むか
4. 課題2の発表：授業・教材づくりのイメージを上げよう
 - ・生徒たちにどんなことを知りたいか聞いてみよう
 - ・ベトナム訪問先で何を見聞きたいか考えよう

○感想 事前にベトナムと日本や自分たちの県とのつながりなどを調べた。自分の県にはベトナム出身の方がたくさん住んでいることや衣類など身近なベトナム製の商品に生活が支えられていることを初めて知った。様々な視点でテーマを設定している先生方の発表を聞いて、授業のイメージが広がってきた。猿渡校長の JICA 海外協力隊としての経験を伺い、今回の研修は、視野を大きく広げるチャンスなのだ実感した。写真などを多く撮るなど、子どもたちに現地の雰囲気伝えるためのアドバイスをいただき、大変参考になった。研修後に子どもたちの学びに生かせるように、各自のテーマを意識して、ベトナムで活動に取り組みたいと思った。（森田・栗田）



○ベトナム ODA 実施状況

現在ベトナムではどのような ODA が行われているのかを具体的にお話しいただいた。帰国後に全員が子どもたちに向けて授業をするということで、子ども向けの説明スライドを使用しながら、ベトナムがどのような国であるのか、どんな支援が必要なのか、ベトナムと日本にはどのようなつながりがあるのかを聞くことができた。

発電や麻疹・風疹のワクチン製造、交通機関の整備や上下水道の整備など、多くの場所で JICA が貢献していることが分かった。特に、国の民法にまで関わっていることには驚きを隠せなかった。JICA がこれまで積み上げてきた信頼が、国の深部にまで関わる力を持っているのだと改めて感じた。

○JICA 海外協力隊活動状況

JICA 海外協力隊が、世界中でどのような活動をしているのかをお話しいただいた。新型コロナウイルス蔓延後の対応や、現在最も支援をしている国など、興味深い話題が多かった。

現在、協力隊が多く派遣されているのはアフリカ地域だそうだ。次に、アジア地域と続く。お話の中に、「いつか、この JICA 支援は無くならなければいけない」という言葉があった。言葉だけ聞けば辛い言葉かもしれないが、確かに目指すべきところはそこである。「何のために」「誰のために」開発教育をしていくのか、先が見えた気がした。



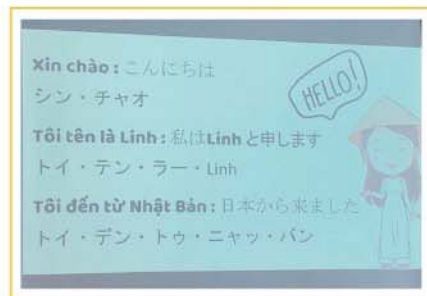
○ベトナム ODA 実施状況

現地のスタッフの方より、簡単なベトナム語の講座をして頂いた。

- ・こんにちは ⇒ シン・チャオ
- ・私の名前は～ ⇒ トイ・テン・ラー・～
- ・日本から来ました ⇒ トイ・デン・トゥ・ニャツ・バン
- ・私の好きなものは～⇒ トイ・ディック・～

○ベトナム ODA 実施状況

訪問する先々で、「シン・チャオ」という挨拶をすると、現地の方々が喜んでくれた。確かに私たち日本人も、「こんにちは」「ありがとう」という言葉一つで、日本のことを知ってくれているのだとうれしく思うことがある。そういった意味で、言語というものは素晴らしいものなのと思った。(森田)



○グエン・チーフオン小学校

グエン・チーフオン小学校は、ハノイ市内にある公立の小学校である。日本語教育に力を入れており、たくさんの子どもたちが第二外国語として日本語を選択している。歓迎会では、子どもたちが日本語で歌を歌い、日本語で歓迎の挨拶をしてくれた。また、子どもたちや先生方が日本の浴衣を来て出迎えてくださった。自分達の国や文化を理解し、受け入れようとしてくれていることが、こんなにも嬉しいのだと知った。それと同時に、私達日本人はどうだろうかと考えさせられた。外国籍の子どもたちを受け入れるとき、また、国際理解教育を推進していく上での根幹となる、とても大切なことを学ぶことができた。

交流会では、子どもたちと一緒に折り紙で鶴を折った。コミュニケーションする際に、日本語だけでは伝わらず、また、私達もベトナム語を話すことができない。それでも、何とかしてお互いに伝え合うことができた。言葉が通じないからこそ、身振り手振りや笑顔など、お互いを尊重し、分かり合おうとする態度が大切なのだ改めて感じた。また、ベトナムの子どもたちは日本人と比べてとても英語が上手だと分かった。国を超えた共通言語としての英語学習の重要性を実感する場面であった。日本の子どもたちの英語学習の動機づけとしていきたい。

その後、現地教員との意見交換会を行った。ベトナムでは、第二外国語として日本語を学ぶ子どもたちがたくさんいて、彼らは日本の文化に興味を持ち、将来は日系の企業で働くことを目指していることを知った。

また、歴史教育に関する話の中で、自分の国を作った人達に感謝の心を持ち、自国に誇りを持てるようにすることを大切にしている、という話が印象的だった。平和を願う思いや、それを伝えていこうとする先生方の姿は日本における教員の願いと同じだと感じた。また、プログラミング教育の導入や、研修や仕事の多さなど、教員の悩みや課題にも共通点があることが分かった。

最後に、学校内を見学し、教室や図書室等を見せていただいた。ベトナムには昼寝の文化があり、給食後にお昼寝の時間があったり、子どもたちが図工で描く絵がどれもカラフルだったり、日本と比べた違いを見つけることができ、とても興味深かった。また、学校内では日本語の掲示物をたくさん見かけた。(河室)



● JICA草の根技術協力事業 下水処理場視察見学 ●

○ハイフォン市における JICA 草の根技術協力事業

ハイフォン市は、急速な都市化に伴い、家庭や工場からの排水量が急増する一方、下水処理場が整備されていないため、下水がそのまま海や河川に放流されており水環境の悪化が深刻である。そのため姉妹都市である北九州市が JICA 草の根技術協力事業として下水道分野で様々な技術支援を行っている。

○水道局施設の概要説明・交流会

ハイフォン市水道局で施設の概要説明や所員との交流を行った。ハイフォン市と JICA 九州がある北九州市は、2009 年の友好・協力協定の後、JICA 草の根技術協力事業を通して、北九州市による下水処理の技術支援や、ハイフォン市水道局員による北九州市の視察など多岐にわたって交流が行われている。排水に関しては、ベトナムでは大きな課題となっており、ハイフォン市でも様々な場所で冠水が見られる。その中でも下水処理に関して、日本の技術が導入されていることは感慨深い。また、町全体の洪水・冠水に関する避難訓練の実施も計画されており、この訓練においても日本の避難訓練のマニュアルを参考にしている。ディスカッションの中では、排水や水に関する教育を積極的に行うために、施設見学や資料館の充実といった意見が出ており、建設的な意見が出る交流会となった。



○マンホール蓋の見学

マンホール蓋を見学し、家庭の排水、下水道の見学を行った。北九州市との排水との違いは、下水と排水システムが一本化されていないところにある。下水を流す時に発生する匂いの問題から、下水と排水の処理を分けて行われている。北九州市による技術支援は、北九州の下水・排水をそのままハイフォン市に当てはめるのではなく、ハイフォン市のニーズに合わせて、排水の仕様を変えるような工夫がされていた。



○ビンニエン下水処理場

ビンニエン下水処理場は、標準活性汚泥法という、北九州市の下水処理場と同じ水処理方式を採用しているタンク内で下水と活性汚泥と呼ばれる微生物に空気を含ませることによって混合し、その後、最終沈殿池で活性汚泥を沈殿させて、上澄みの水を処理水として川へ流出させる仕組みとなっている。小学校 4 年生の社会科で子どもたちが学ぶ下水処理と同じ処理方式であり、実際に日本の技術が用いられているのだと肌で感じる事ができた。



○感想

現在ベトナムの経済・技術の成長は急速に進んでいる。しかしながら、その成長にインフラの設備が追いついておらず、環境問題が懸念される。現在、下水・排水処理については、今回視察したビンニエン下水処理場で浄化が行われている。将来的に国全体のインフラ設備が整うと、次に必要なこととして「教育の必要性」が考えられる。今回の水道局でのディスカッションでもあった施設見学の提案のように、国や市が取り組んでいる環境へ配慮した取り組みについて子どもたちが学ぶ。そうすることで、市民を巻き込んだ環境問題への取り組みが期待できると考える。施設見学を通じて改めて、「教育」の根幹について考えさせられた。(久米)



○ハイフォン市児童文化会館

ハイフォン市児童文化会館に到着後、講堂や掲示物を見学し、会議室にて15人の職員と交流を行った。ハイフォン市児童文化会館代表のブン氏からご挨拶をいただき、グアン氏より施設の概要説明をいただいた。43人の職員が4部署で勤めており、4,000人の児童生徒が利用している。児童生徒は、小中学校が長期休みの間などに利用しており、様々なクラブに参加できる。



○日本語教室の授業見学・学生たちとの交流

JICA 海外協力隊の近藤充沖隊員が活動している日本語教室の授業見学や学生たちとの交流を行った後、近藤隊員より活動報告をいただいた。日本語教室の授業見学や学生たちとの交流では、日本語を使った自己紹介、日本語を使ったダンス、折り紙を通して交流を行った。私たちは、先日のグエン・チーフオン小学校視察で披露したダンスを行った。日本語で交流したことや、日本の折り紙に触れることができた児童の笑顔に感動した。



近藤隊員の活動報告では、長期派遣の経験から外国で国際協力することの課題と難しさ、国際協力を行えている喜びを感じることができた。



○児童文化会館施設及び他のクラブの見学

日本語教室の見学後は、施設及びその他のクラブの見学を行った。ダンスクラブ、バレエクラブ、ギタークラブ、歌唱クラブを見学することができた。特に、給食指導を行っていたクラブでは、給食の献立を見ることができ、給食の配膳方法や食事前の挨拶など、日本との比較をすることができた。



○感想

ベトナムの児童文化会館について学ぶことができた。日本とは異なる教育のしぐみがあり、興味深かった。児童文化会館に通う学生たちは実に生き生きとしており、学ぶことに対して前向きな姿勢であることに感心した。また、近藤隊員の国際協力に対する姿勢や学生たち、カウンターパートナーと向き合う姿に情熱を感じた。(松田)

世界遺産ハロン湾視察

○観光地としてのハロン

ハロンの街並みは栄えていて、大きなホテルが建ち並んでいた。計画が途中で頓挫してしまったようなビルも見かけられたが、夜遅くまでイベントが大音量を響かせていたほど、活気がある街である。海外から多くの観光客が来ていた。

○ハロン湾の様子

クルーズ船に乗り、ハロン湾を見学して回った。船の中で食事をとった。20万ベトナムドン紙幣に描かれている「夫婦岩」などを見ながら「ティエンクン（天宮）鍾乳洞」に着いた。海に発泡スチロールや瓶などのゴミが浮いているのが目についた。鍾乳洞の中は広く、ライトアップや噴水などが作られている場所もあった。日本の鍾乳洞とは違い、気温や湿度が高かった。家族旅行の時期からは少し過ぎているということだったが、雨にもかかわらず非常に多くの見学者がいて、行列ができていた。ゴミ箱が色々なところに設置されていたのが印象に残った。



○JICAの技術協力プロジェクト

ベトナムでは、1986年の「ドイモイ政策」採択以降、著しい経済成長を続けている一方で、自然環境が悪化していた。1994年、世界遺産に登録されたハロン湾は、国随一の観光地と同時に、国内でも有数の石炭の産地であり、国北部の主要な工業開発地域となっているため、ハロン湾近郊で急激な工業化および、それに伴う都市の拡大が進み、排水・廃棄物、マングローブの伐採、海域への土砂堆積、無秩序な埋め立てなど、環境汚染が深刻になっていた。

2016年～2019年、JICAは技術協力プロジェクトを通して、ベトナム北部クアンニン省の環境汚染改善にかかる実施体制を構築し、人材育成など、対策実施に向けた取り組みを支援した。これにより、ハロン地域の持続可能な観光に向け、クアンニン省関係機関の環境管理実施能力の強化に貢献した。



○感想

ハロン湾と熊本県との共通点を考えてみた。熊本県の天草には、船に乗ってイルカを見るツアーがあり、人吉には球泉洞という大きな鍾乳洞がある。しかし、ハロン湾のように観光地として大きく賑わっていない。世界遺産に認定されているという点が違うが、モチーフとした商品が売ってあるお土産屋がたくさんあることなど、観光開発の面で見習う点が多いと感じた。

その一方で、海や船着場にゴミが散乱しているなど、美しい景色を未来へと残していくために、環境保護について考えていく必要があると実感した。波がほとんどないので、琵琶湖の取組を生かして支援してきたということも参考になった。世界中の似ている場所などで互いのノウハウを活用することで、よりよい環境づくりができるはずだと実感した。(栗田)

ベトナム研修最終報告会

JICA ベトナム事務所にて、最終報告会を行った。本研修に参加した8名の教員が、それぞれ本研修を通しての気づき・学びを発表した。

○ファン・レ・ビン氏（社会基盤プログラム専門家・日越大学講師）による講話

最終報告会に先だって、「ベトナム人 - 日本人の仕事の相違、教育現場での違い」についてお話をいただいた。行動特性の違いや仕事における特徴、日越大学で見える違いなどの説明があり、ベトナムと日本の違いだけではなく、日本と似ている点も知ることができ、よりベトナムについての知識が広がったとともに、本研修の中で疑問に思っていたことが解消された気がした。

○感想 今回訪れたベトナムだが、参加した教員のほとんどが初めての訪越であった。

日本国内での事前研修で、ベトナムの空港に着いて最初に足を踏み入れたときの第一印象を大事にしてほしいというお話があったが、私を感じた第一印象は「エネルギー」だった。もちろん、気温、湿度、匂いなど日本と違うところはたくさんあっただろうが、何よりも人の行き交う姿、車やバイクの音、町の風景に圧倒され、まるで経済成長していた頃の昭和の日本であるかのような感覚になった。（私は平成生まれなのであくまでも予想です）

ベトナムは現在、経済成長真ただ中の新興国であり、訪問した学校や施設は活気があり、たくさんのおもてなしを受け、非常にたくさんの料理を出していただくなど刺激的な経験ができた。また、今回お話しさせていただいた全ての方々はその仕事に対する熱意に溢れ、私自身の仕事に対する考え方について改めて見直すきっかけとなった。

本研修に参加した8名の教員は、小学校、中学校、高校、特別支援学校と校種が様々であり、また担当教科もバラバラなため、感じ方や考え方、生徒への還元の仕方など色々な違いがあり、それをお互いに共有することによって、より深い学びになった。

今回の研修に参加し、「何を経験するか」と同様に「誰と経験するか」が重要であると改めて感じた。参加した先生方、支えていただいたスタッフの方、ベトナムでのガイドの方々など素敵な出会いをたくさんいただいたことに感謝の気持ちで一杯だ。今後もここでいただいたご縁と学びを大切に今後の活動に活かしていきたい。（宮脇）



ベトナム文化観光

○オペラハウス・ハノイ大聖堂

この建物は、フランス統治下時代に造られたハノイを代表する洋風建築である。今回は中の見学は行わず、外からの見学を行った。オペラハウスは、パリにあるオペラハウスをモデルに造られている。ハノイ大聖堂はベトナムで最も大きなカトリックの教会である。夜にはライトアップされ、また違った雰囲気になる。



○ホーチミン廟

ホーチミン廟とは、ホーチミンの亡骸が安置されている場所である。このホーチミン廟に眠っている「ホーチミン」はベトナム民族解放と独立のため、生涯をかけ、今もなお「ベトナム建国の父」として、ベトナム中から愛されている存在である。中に入るためには、午前中に行かなければならない。入り口では、持ち物検査が行われる。



○ドンスアン市場

旧市街にある建物の中にある大きな市場。食品から衣類などなんでも売っている。お土産を安く買うなら、おすすめの場所である。私はここで、ベトナム刺繍のポーチやノンラー、ベトナムコーヒー用の道具などを購入した。



○ベトナム国立歴史博物館

ベトナムの原始時代から近代にわたるまでの学習ができる博物館である。とても広く、建物自体も趣がある。特に印象に残ったのは、建国の父ホーチミンの活躍と、ベトナム戦時下時代の解説である。ベトナムはいろいろな国の影響を受けながら今があることを実感することができた。



○水上人形劇

伝統民謡の音色に合わせて、水面の上を可愛く動く面白い伝統芸能である。簡単な冊子をもらうが、わかりやすいストーリーなので見ているだけでもよくわかる。撮影は自由にできる。とてもコミカルかつ火や水を使った迫力満点の舞台である。



○旧市街

ベトナムでの最後の時間ということもあり、みんな夢中になってショッピングをしたり、カフェでゆっくりしたりとひとときを過ごした。有名なエッグコーヒーも飲み、ベトナム雑貨やお土産など思い思いに最後の夜を楽しんだ。



○感想

一日で回ったとは思えないほど、盛りだくさんの文化観光の時間だった。疲れもあったが、みんなパワフルに歩き回っていた。様々な学びがあり、そのまとめにふさわしい学びの一日だったと思う。(一ノ瀬)

ベトナムの食文化

○地域性

北部の味付けは薄めで優しい。海に面しているハイフォン市やハロン市ではいかやたこ、しゃこ、かに等の海産物を使用した料理が発達している。素材の味を生かした調理法が多い。中部は辛め、南部は甘めの味付けの料理が多い。



○旬の食材

ベトナムも日本と同じく四季がある。私たちが訪れた夏は、瓜やツルムラサキ、茄子等の野菜や、マンゴー、ドラゴンフルーツ等の果物、マテ貝や蛤等の貝類等が旬を迎えていた。茄子を塩、唐辛子、水、生姜、にんにくで漬けた「カームオイ」を、瓜や青梗菜を入れた汁物の中に入れることが、暑い夏によく食べられている食べ方だそうだ。



○社会性

ベトナムでは訪問者に対し「バインコム」と呼ばれる餅菓子や果物、湯茶等でもてなすことで、歓迎の気持ちを表す風習がある。バインコムは色とりどりの餅生地の中に、緑豆を潰して砂糖と混ぜたものが入っていた。また、日本では一人で外食する人も多いが、ベトナムでは一人で食事する人は少なく、家族や友人、仕事仲間等と食事を楽しむ風習がある。



○生活習慣と食事時間

ベトナムの学校や会社は7時半前後に始まる場所が多く、日本と比べ、ベトナムの人々は朝型生活を送っている傾向にある。生活習慣についてベトナムの人々に調査したところ、朝の4~5時に起床し、近所の公園で体操等をして、屋台で麺や粥等の朝食をとってから出勤する大人が多いということだった。登校してから先生と一緒に朝食をとる学生も多いそうだ。昼休みは1時間半から2時間あり、このうち30分程度食事の時間で、残りは昼寝の時間と決まっている。ベトナムでは大人も子どもも昼寝をする習慣がある。夕食は20時前後に食べる人が多いそうだ。



○感想

ベトナムといえばフォーを思い浮かべていたが、米が主食だと知り驚いた。汁の中にご飯や麺、パクチーやミント等の香草、ネムと呼ばれるつくねのようなもの等を入れる食べ方が印象的だった。時間がない時でもバランス良く様々な食材をとることができる、効率がいい方法だと思った。食器に箸や茶碗が使われていたり、フランスパンに肉や野菜等をはさんで食べる「バインミー」という料理があったりと、ベトナム料理は中国やフランスから伝来された異なる食文化が組み合わせられていることを実感した。ベトナムの食文化に触れ、食事は人々の社会性を育むコミュニケーションツールだと改めて感じた。今回の研修で学んだことを生徒たちに伝えることで、日本の食文化との違いやよさに気づかせたい。(砂田)

✂✂✂✂ ● 帰国後研修 ● ✂✂✂✂

○日程・場所 2023年8月26(土) オンラインにて実施

○内容

1. アイスブレイク・ベトナム研修振り返り
(ベトナム研修で一番印象に残っていること、帰国後の気付きや変化の発表)
2. 学習指導案の発表・コメント
3. 学習指導案に関する講義
講師：福岡県飯塚市立小中一貫校穂波東校 中学部校長 猿渡和則氏
4. 参加者全員によるディスカッション

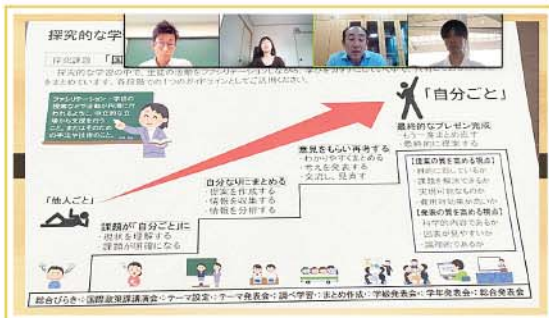
○学習指導案に関する講義内容まとめ

今、学校に求められていることは「持続可能な社会の創り手の育成」である。授業の中で児童生徒が、「他人ごと」からいかに「自分ごと」として考えることができるようにするか教員は意識する必要がある。また、より実践力につながる学びをつくり上げていくのが重要となる。そのためには、世界で起こっていること、今回はベトナムで起こっていること等を例示し、身近な地域社会の課題と結びつけていくことにより、児童生徒にとってより実践することがイメージしやすくなる。

そして、そのための手立てが、単元の目的をより達成するために、カリキュラムマネジメント（教科横断的・外部人材の有効活用・実態に照らし合わせながら改善していく）の手法を効果的に使うことが有効である。学び方を探究的なものにすることで、より主体的な学びとなることにつながる。そのための準備として、ゴールを全校で共有しチームで取り組むことが必要である。評価については何をもって目標に近づいたかをみるのか、目標を達成した具体的な子どもの姿をイメージしながら、事前にルーブリック（評価基準）等を作成するとよい。（砂田）

○感想 ベトナム研修中に、帰国後研修で何を学びたいか、何を知りたいかについてメンバー全員で意見交換を行った。その中で、授業実践に向けて、参加教員が作成した学習指導案を持ち寄り、指導助言をいただきたいという意見が出た。この意見を受け、帰国後研修までに準備することを確認した。この事前準備が、参加教員一人一人の指導計画に対し、指導助言をいただくことができたことにつながり、よかったと思う。帰国後研修を通して、教師海外研修で学んだことを、参加教員がどのような形でアウトプットしていくかについて共通認識をもつことが大切であると感じた。帰国後研修で学んだことを生かし、授業改善につなげたいと思う。（砂田）

○研修の様子



○日程・場所 2024年1月27(土)・28(日) JICA九州センターにて実施

教師海外研修参加教員 7名、九州各県で開発教育／国際理解教育を実践している教員 12名、国際協力推進員 7名の計 26名が参加

○内容

1/27(土) 1日目 (対面とオンライン配信のハイブリット形式で実施)

1. 報告会第1部 小学校・中学校教員
2. グループディスカッション① テーマ「参加者に聞く！教海研のここが気になる！」
3. 報告会第2部 高校・特別支援学校教員
4. グループディスカッション② テーマ「どう始める、どう続ける開発教育」

1/28(日) 2日目 (対面実施)

開発教育ワークショップ「人を啓き、社会を開き、未来を拓く 開発教育・国際理解教育」

ファシリテーター：特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター代表理事 伊沢令子氏

○感想 1/27(土) 1日目

ベトナムでの経験を生かした、他教科にわたる実践や専門性の高い実践の発表だった。参加されている先生方がとても熱心に発表を聞いてくださり、的確な感想や質問が飛び交いますます学びが深まった。また、グループディスカッションでは、たくさんの付箋を用いて、時間が足りなくなるくらい活発に意見が交わされた。その後の懇親会では、開発教育・国際理解教育について語り合い、県を越えた九州のつながりが生まれていた。再会とともに新たな出会いがあり、同じ志をもつ仲間の輪が広がった一日だった。(一ノ瀬)

1/28(日) 2日目

驚くほどあっという間の3時間半だった。それだけ、内容が濃く、楽しみながら学ぶことができた実感した。まさに、参加体験型の良さが詰まったプログラムだった。伊沢講師のワークショップは、たくさんの自己紹介アイスブレイクがあり、どれも夢中になって話しながら、自分自身や他者理解につながり打ち解けていくことができた。また、様々な手法を知ることはこれからの開発教育の実践につながると感じた。

最後に、中部での事例を参考に九州で実践・継続・つながるためのアイデアを出し合った。これが終わりではなく、これからが本当のスタートであり、持続的な開発教育・国際理解教育をしていかなければならないのだと再認識することができた。ここまで、たくさんの先生方、スタッフのみなさんとの出会いがあり、そのおかげで本当に充実した有意義な研修になった。このご縁、そしてこの貴重な経験に心から感謝したい。(一ノ瀬)

○ 研修の様子



1日目 ベトナム研修の授業実践発表



グループディスカッションの様子



2日目 伊沢講師によるワークショップ



世界と日本の課題を考えるグループワーク



集合写真

研修全体を振り返っての感想（参加教員）

河室陽子 佐賀県基山町立若基小学校



国際理解教育 / 開発教育・異文化理解等に興味のある先生方との話し合いや講義はとても興味深く有意義なものだった。様々な県、校種を超えてのつながりということもあり、自分の知らない分野について聞くことができ、勉強になった。「なぜこの研修に応募したのか」「ベトナムで一番楽しみなことは」という質問に対して一人一人が違う考えを持っていて、それがまたとてもおもしろいと感じた。ベトナムでの経験や学んだことを授業に活かしていくことがこの研修の大切な目的であるが、できることならば、どの先生の授業も見に行きたいと思った。研修の間、同じ空気を感じながら過ごした先生方とのつながりを大切に、1回の授業で終わらない、全ての教科につながるような授業実践を今後目指していきたい。

栗田和幸 熊本市立泉ヶ丘小学校



今回の研修を通して実感したのは、コミュニケーションの楽しさだ。ベトナムの小学校で子どもたちが日本語で挨拶してくれた時に、自然と涙があふれてきた。相手のことを考え、思いを懸命に伝えようという気持ちがこんなにも嬉しいものだと思えてきた。ベトナムで多くの方と話すことができ、本当に楽しかった。言葉が分からなくても、分かり合えるこの経験を子どもたちに伝え続けていきたい。

小学校や児童センターを見学し、子どもたちも先生たちも同じなんだと感じた。下水処理の技術などのように、教育システムも積極的に互いに取り入れ合っていくとよいと思った。ベトナムと日本の違いに、もちろん子どもたちは興味津々だが、変わらないものがたくさんあることに重点を置いて授業してきた。これからも広い視野を持った子どもたちになってくれるように心がけて支援していきたい。

一ノ瀬 めぐみ 長崎精道小学校



一番印象に残っているのは、小学校への訪問です。まさかこんなに涙がこぼれるとは研修前には想像できませんでした。温かい歓迎と日本語での出迎え、そして日本語で一生懸命歌う子どもたちの姿に胸が熱くなりました。現地に行き、生でふれるからこそわかるあたたかさ、国の違いや言葉の違いをこえて、人はつながることができるということを実感しました。その経験をそのまま授業にしたいと思い、研修を進めました。

また、この研修を通して、一緒に行った先生方やスタッフのみなさんと出会えたのは本当に人生において大きな財産になりました。また、現地での出会い、そして長崎に帰ってからもベトナムの人たちと繋がり、縁が生まれました。またこれを広げていくことで世界が広がると実感しています。小さなことでもなにか世界にとって大きな変化の一つになることを信じて、これからも学び続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

久米 勇一郎 佐賀市立城西中学校



研修を通して良かったことは、何よりも普段の教育現場では出会えない、校種、バックグラウンドの異なる先生たちと一緒にこの研修を受けることができたことです！自分の中での国際理解教育についての考えの狭さを実感しました。食育、マーケティング、貿易等々…先生たちの様々な切り口からの国際理解教育のあり方に、視野が大きく広がったと思います。

国際理解に必要なことは「異文化理解」と「自身の文化の発信」だと思います。JICA 海外協力隊隊員や、ハイフォン市の草の根技術協力事業の話聞いて、国の特徴に応じた支援も大切であり、また、支援をする中で、自分自身が今までに経験したことや体験を伝えることも同じように大切なんだと感じました。今後の教育で子どもたちが多面的に国際理解教育について考えることができるように研鑽していきたいです。

宮脇 滉平 大分県立情報科学高等学校



旅行では決して経験することのできない大変有意義な研修となりました。また、自分がいかに無知であるかを改めて知る機会となりました。JICA の取り組みについてやベトナムについて、そして日本についてなど、この研修に参加したことで教育者としての自分の視野が広がったと実感しております。

これから、グローバル経済化や外国人労働者の増加に伴い、教育現場でも海外にルーツを持つ子どもが増加していくことが予想されます。これまで以上に国際理解・多文化共生の視点が必要です。その際に、教育現場がどのように対応していくのが重要になり、決して対応が後手に回ってはいけないと感じています。

これからの教育を考え、主体的に行動していこうとする素晴らしい先生方とともに本研修に参加することができてとても光栄でした。

松田 倫明 福岡県立大牟田北高等学校



現地の小学校教育、JICA の実施する事業や北九州市が取り組む下水道事業など、インターネット・本や教科書だけでは伝わらない「ほんものベトナム」の一部をみることができた。一つの取り組みや国際協力事業、どれをとっても多くの人々が関わっており、一人ひとりがベトナムを大切に思う心と情熱がそこにはあった。私は現地で活躍する人々をみて、感銘を受けた。私自身、大きな事業や取り組みを今すぐにやるのは難しいが、身近でできる範囲で困っている人へ手を差し伸べたり、国際協力・理解ができるように少しずつ勉強したい。とくに私ができる取り組みは「授業」である。ベトナムで見たことを一度の特別授業として終わらせるだけではなく、持続可能で多様な国際理解が深められる授業を作っていきたい。

森田 路加 宮崎第一中学高等学校



「自分の言葉に説得力を持たせたい」という事が研修への参加動機であったが、素敵なメンバーに恵まれ、本当の意味での国際理解教育について考え、学ぶことができた。

JICA の事務所は世界中にあり、隊員も各地にいるが、「いつかは撤退する事を目指す」という言葉に私はとても衝撃を受けた。途上国が、いつまでも途上国であるわけにはいかない。その国の努力と、サポートする人たちの努力が合わさって、一つの国の成長が始まる。そして、国が自立していく。いつかは、離れる。その視点が得られたことが、とても有難かった。

人々も、文化も、食事も、とても素敵な国でたくさんの経験ができた。生徒に還元できるよう、更に学びを深めていきたいと思う。

砂田 葵 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」



オリエンテーションで「JICA はいつか撤退する。」という JICA 海外協力隊隊員の話が心に残った。その国の方が自国のことをやるのが望ましい形であると知った。この研修に参加するまでは、どこか自分の中で「支援してあげる」という気持ちで生徒たちに接していた部分があると気づき反省した。「支援してあげる」ではなく、「パートナー」として相手と協力体制を築くことが大切であると学んだ。

今回の研修でベトナムに滞在中、たくさんの料理を食べ、ベトナムの食文化に触れることができたことは、忘れられない経験となった。ベトナムの食文化を現地の方々から教えていただくことを通して、食事は人々の社会性を育むコミュニケーションツールであると改めて感じた。今回の研修で学んだことを生徒たちに伝えていきたいと思う。

● 研修全体を振り返っての感想（スタッフ） ●

戸崎 千尋 JICA 九州市民参加協力課



約半年間、この研修に関わることができ、たくさんの学びがありました。出発前まではベトナムと日本の〈違い〉にフォーカスされていた先生方が、ベトナムでの研修を経て〈同じ〉部分や〈つながり〉に目を向けるように変化したこと、8名の先生方がとても積極的に意見交換され、刺激を受け合っていたことが印象的でした。また、帰国後の授業実践についても、児童生徒のみなさんへの伝え方、授業への取り入れ方は私自身大変参考になりました。この学びを、ぜひこれからもそれぞれの教室で活かしていただければと思っています。また、先生方がこの経験を活かす機会を JICA 九州として提供していきたいと思っています。ありがとうございました。

原口 純一 NPO 九州海外協力協会



「ベトナムから広がる、教室と世界」という研修テーマで今年度の教師海外研修を実施しました。今年度は、コロナ明け初となる海外研修ということもあり、大変多くのご応募をいただきました。そのような中で、今回 8 名の先生方とともに、スタッフとして研修に関わらせていただいたことは大きな喜びです。

日本における在留ベトナム人の数は増加傾向にあり、九州においてもベトナムの方々と接する機会が多くなっています。ベトナム研修中は、生徒さんのために写真や動画を積極的に撮って授業に活かそうとしている先生方の熱心な様子がとても印象的でした。そのような先生方の授業を見学させていただいた際には、「地域とベトナムの関わりを考えよう」という授業を展開されている先生方が多く、教室から世界を考えるテーマに沿った研修が実施できたのではないかと考えています。ありがとうございました。

授業実践報告

世界を知ろう・世界とつながろう ～地球の一員として、私達にできること～

河室 陽子 佐賀県基山町立若基小学校

- 教科・科目：外国語科・道徳・総合 ■対象学年（人数）：6年1・2組（45名）
- 実践年月日・期間（時数）：2023年9月～11月（12時間）

【実施概要】

1. 実践する教科・領域： 外国語科、道徳、総合的な学習	2. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
3. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： <ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化に関心を持ち、日本との共通点・相違点・つながりを調べる活動を通して、自分と異なる文化を理解し受け入れようとする態度を育む。 ・日本が行っている技術援助等の国際協力について調べ、世界の課題を知り、自分にできることや役割について考える。 					
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・世界には様々な国や文化があることを理解している。 ・世界の課題を解決するために人々が協力して活動していることを知り、国際社会の中で日本が果たしている役割を理解している。 			
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の文化の共通点と相違点を見つけ、よさを考えようとしている。 ・ベトナムの現状から学習課題を設定し、地域社会から自分にできることや、日本人としての役割を考えることができる。 			
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムや世界の文化に興味を持ち、グループ活動や発表に進んで取り組もうとしている。 ・ベトナムや世界で起きている問題の解決のために取り組む人々の活動に関心持ち、学習課題に向けて意欲的に取り組もうとしている。 			

5. 単元設定の理由・単元の意義

(児童／生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由あるいは単元の意義】

本単元では、ベトナムのことを中心に多くの写真や実物に触れながら、他国と日本の文化の違いを知り、世界の多様性を感じることができる。また、世界に数多く存在する国の中の一つとしてベトナムや日本を捉え、その良さを紹介する活動を通して、どの国にも違った良さがあることに気付く、互いを尊重して共生することの大切さを実感することができる。グローバル化の進展により、現代社会では世界規模で問題を捉え解決策を考えることが重要である。

【児童／生徒観】

本学級には外国籍のA児、ベトナムで数年間生活した経験のあるB児が在籍しており、日頃から他国の文化や言葉に興味・関心が高い。日本語で伝わらないときには自分の知っている簡単な英単語や身振り手振りを使って、なんとか相手に伝えようとする粘り強さがある。A児の努力や日本語の上達に気付き、「すごい!」「がんばれ。」と素直に認め、応援する児童が多い。また、外国語の学習ではALTと積極的に関わり、思いや考えを伝え合おうとする姿も見られる。その一方で、メディアを通して知った日本と他国の文化や習慣の違いを受け入れられず、他国に対して否定的なイメージを持っているような発言も見られる。目の前にいる相手が自国の文化に誇りを持って力強く生きているのと同じように、全ての国の人達がそれぞれ異なる文化を持ち、その文化を大切にしていることに気付かせ、全ての国の課題を自分事として捉えられるようになってほしい。

【教材観】

ベトナムの現状と課題、その解決に向けた日本や世界の取り組みを知ることを通して、世界規模で問題を捉えることの必要性や、日本と他国とのつながりに気付かせたい。また、よりよい社会の発展に向けて、身近な地域社会から始められることを考えさせたい。5年生で学習したSDGsの取り組みとつなげ、自分達にできることを考え、その実現に向けて一歩を踏み出し、粘り強く取り組む態度を育みたい。

【指導観】

教師海外研修を通しての経験を、写真や動画、持ち帰った実物等を教材として活用し、日本とベトナムの違いと共通点に触れ、興味を引き出す。研修出発前に児童が興味を持っていた食べ物やバイク、ファストファッション等身近な話題を導入として、その背景にある途上国の課題や日本とベトナムのつながりに気付かせたい。11月に予定している修学旅行に向けた折り鶴作りでは、ベトナムの子どもたちと一緒に作った折り鶴やプレゼントしてもらった折紙を紹介する。平和を願う気持ちはどの国の人も同じであることを意識しながら、全校児童と共に鶴を折らせる。外国語「See the world」では、世界の様々な国の住居や食べ物、民族衣装等の文化に触れ、その国々の中の一つとしてベトナムを英語で紹介させる。日本とベトナムのみならず、世界中には多くの国があり、どの国の人も自国の文化に誇りを持って生活していること、違いを知り尊重し合うことの大切さに気付かせたい。道徳ではJICA海外協力隊の学習を通して、国際理解・国際親善について考える。日本人が国際社会の一員として活動する意義を感じさせたい。総合では北九州とハイフォン市のビンニエン下水処理場、ハロン湾開発におけるJICAの取り組み、鳥栖市における技能実習生の現状に触れ、学習課題を設定し、世界の人々が安心と信頼の中で暮らせる社会の実現に向け、身近な地域社会から自分達にできることを考えさせたい。

6. 単元計画（全12時間）			
時	ねらい	学習活動	資料等
1 総合	ベトナムを知ろう ①	写真や動画のスライドを見て、クイズ形式でベトナムの食べ物や生活について知る。	ベトナムの写真・動画
2 総合	ベトナムを知ろう ②	ベトナムの歴史や子どもたちの活動を知り、修学旅行の折り鶴作りに向けて意識を高める。	ベトナムの写真・動画 ベトナムの子どもたちと一緒に折った鶴の折り紙
3 学校行事	願いを込めて折り鶴を作ろう。	修学旅行に向けて全校児童と協力して、平和への思いを込めて折り鶴を折る。	
4 道徳	JICAってなんだろう？「米作りがアフリカを救う」	JICA 海外協力隊について知り、国際理解・国際親善について考える。	JICA 活動についてホームページ参照
5 総合	ベトナムと日本、JICA の活動について考えよう①	北九州とハイフォン市のビンニエン下水処理場の関係、ハロン湾開発における JICA の取り組みに触れ、学習課題を設定する。	ベトナムの写真・動画 日本の昭和初期頃の写真・動画
6 総合	ベトナムと日本、JICA の活動について考えよう②	安心と信頼の中で暮らせる社会の実現に向け、身近な地域社会から自分達にできることを考える。	まとめ用ワークシート
7 総合	私達にできること	前時までに考えた「私達にできること」をグループ毎に発表し合う。	タブレット（スライド機能）
8 外国語（本時）	See the world ～世界を知ろう～①	ベトナムをはじめ他国の食べ物や伝統衣装について知り、日本との共通点や相違点を見つける。	ベトナムの民族衣装（アオザイ）食べ物の写真等
9 外国語	See the world ～世界を知ろう～②	人々の文化を紹介する文を英語で書き、発表し合う。	





7. 本時の展開（概略）			
本時のねらい：日本と他国の食文化や民族衣装の共通点と相違点を知り、互いを尊重する態度をもつことができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1 Greeting(挨拶)後にOpening Songを歌い、声を出す。	○挨拶後、歌を一緒に歌うことで、ウォームアップを図る。 ○気持ちを表す表現をカードで提示することで、児童が自分で選んでそれぞれの気持ちを表現できるようにする。	○歌 「What's your nationality?」 ○気持ちの表現カード（黒板掲示）
展開 (35分)	2 Let's Watch and Think イタリア・スペイン・ベトナムの有名な食べ物について聞き、日本と似ているところや違うところについてJamboardに表し、話し合う。 3 Feint Repeat Game 指導者が指すカードを読む。ただし、指導者は時々指したものと違うものを言うので惑わされないようにする。 4 Let's Play チマチョゴリ・ディアンドル・サリー・アオザイの写真と、各国の国旗（韓国・ドイツ・インド・ベトナムの民族衣装）を線でつなぐ。	○各国の子どもたちから、その国の食べ物を紹介する手紙が届いたことを説明し、ALTがゆっくりと読み上げる。 ○ベトナムの食べ物として、ブンチャーを紹介する。 ○聞き取りメモをもとにして、グループ毎に日本との共通点や相違点を考えさせる。このとき、日本や海外の食べ物を知り、興味を持って尊重しようとする態度の育成に重点を置く。発表やグループワークでは日本語のやり取りが多くなるが、英語にこだわらず、進めたい。 ○Feint Repeat Gameの出題単語は、本時で使う国の名前を用いて、本時の学習の足がかりとする。 ○はじめにALTと単語の正しい読み方を練習し、意味や読み方の理解・定着を図る。 ○ゲームが始まったらALTは、読むことに自信がない児童の近くで、一緒に正しい単語を読むことで、自信を持たせる。 ○総合で学習したアオザイの言葉の意味やアオザイの特徴を想起させ、前時までの学習とつなげる。 ○各国の子どもたちからの手紙としてヒントを3つ準備しておき、子どもたちが名前を選んで1通ずつ順に読んでいく。	○各国の子どもたちからの手紙 ○Jamboard ○食べ物紹介カード ○フラッシュカード ○ヒントのお手紙 ○Jamboard

<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 真実のロゲーム ペアになり、一人 (A) は片手で犬の口のような形を作り、もう一人 (B) はその中に指を入れるようにして備える。教師が読み上げる文章を聞き、正しければそのまま動かない。嘘ならば、A は噛みつき、B は噛まれないように素早く指を抜いて逃げる。</p> <p>6 Review 振り返りをする。</p>	<p>○教師が読み上げる文は、これまでに学習した各国の食べ物や民族衣装について取り上げる。また、総合で学習したベトナムの町や人の様子も取り入れるようにする。</p> <p>(例) In Vietnam, many people ride motorcycles. In the U.S.A, hot dogs are famous.</p> <p>「-----」 「In ○○ (国の名前), they have ~.」 「-----, ○○ are famous.」 「-----」</p> <p>○新しく学んだ言葉や表現などについて発表させる。</p> <p>○英語学習のめあて (Challenge、Understand、Have Fun) に沿って活動できた児童の頑張りや価値づけ、次時の活動を紹介し、意欲を持たせる。</p>	
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <p>【評価規準】 これまでにベトナムについて学習したことをもとに、日本とベトナム、その他の国々との食文化や民族衣装の共通点や相違点について進んで調べ、考えようとしている。</p> <p>【B】 Jamboard で、日本と他国の文化について比較し、相違点や共通点を書くことができる。</p> <p>【A】 Jamboard で、日本と他国の文化について比較し、相違点や共通点、各国のよさを3つ以上書くことができる。</p>			
<p>9. 学習方法および外部との連携</p> <p>総合 (前時まで) の学習では、ベトナム研修で出会った子どもたちや町の様子について、写真・動画・実物を通して紹介した。「一日一ベトナム」と題して、少しずつ紹介することで、子どもたちは異文化に興味を持ち、「次のベトナムの紹介は何の紹介ですか?」と楽しみにしている様子だった。また、外国語の学習では、ベトナムについて扱うと同時に、ALT の出身国であるジンバブエについても多く取り扱い、異文化を身近なものとして感じ、親しみを持てるようにした。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>外国語専科教員と協力し、他クラスでもベトナムについて紹介してもらおうようにした。</p>			

【自己評価】

11. 苦勞した点	ベトナム研修を通して、実際に自分の目で見て、肌で感じ、直接人と関わることの大切さを実感した。自分が感じた空気感を、日本に住んでいる子どもたちにどうやって伝えたらいいだろうかと考えた。食べ物や洋服、同年代の子どもたちのことなど、まずは子どもたちが興味を持ちそうなところから紹介するように心がけた。
12. 改善点	総合ではベトナムと日本のつながりについて考える学習を行った。ベトナムにおける JICA や北九州の取り組み、技能実習生の方の働き方等の日本国内における課題について、もう少し詳しく取り扱い、課題意識を深められたらよかった。時数が足りなくて、あきらめたことも多い。3、4年生の外国語活動で異文化に触れる機会を増やしたり、5年生の社会や総合で環境についての学習に組み込んだりして、発達段階に合わせて少しずつ取り入れる必要があるように思う。
13. 成果が出た点	総合におけるベトナム調べや修学旅行での平和学習、社会科における歴史学習や外国語での異文化理解学習等、様々な教科で取り扱うことで、子どもたちはベトナムや環境問題を身近に感じる事ができた。何気ない会話の中にベトナムに関する話題が出てきたり、ベトナムについて ALT に紹介しようと懸命に英語で話しかけたりする姿が見られた。これを機に、ベトナムをはじめとした他国に興味を持ち、人とつながることの楽しさを感じながら、学習を深められるようにしたい。
14. 学びの軌跡	<p>第4時の道徳「米作りがアフリカを救う」では、JICAの活動を知り、他国と協力して互いに高め合うことのできるよりよい関係を築いていこうと考えることができた。また、第5、6時の総合では、北九州とハイフォン上下水道の関係、ハロン湾開発における JICA の取り組みに触れた。環境問題は他人事ではなくこれまでの日本でも問題になっていたこと、持っている技術を共有し、共に歩いていくことの必要性、また、開発途上国が将来自立して開発、発展していけるような支援の仕方を工夫しなければならないことに気付くことができた。</p>  <p>本単元では、単元全体を通して日本とベトナムの「おなじ」「ちがいは」「つながり」を知ること、それを尊重する態度の育成を目指し、大切にしてきた。</p> <p>本時の外国語でも、他国との食文化や民族衣装の違いについて扱った。子どもたちは箸や米食などの、日本とベトナムの間の共通点に気付くことができていた。また、どの国にもそれぞれ違った食文化があり、どの国の人でも自国の食材や料理を「おいしい」と感じ、大切にしていることに気付くことができた。</p>



	Italy  	Spain  	Vietnam  
<ul style="list-style-type: none"> 似ている 同じ 日本にもある 	<p>ピザがある 🍕</p> <p>モッツアレラチーズがある</p> <p>ローハム(生ハム)がある</p> <p>healthy</p>	<p>お米 </p> <p>美味しい 🍛</p>	<p>箸 </p> <p>麺 </p> <p>ハンバーグ </p> <p>野菜を麺に入れる</p>
<ul style="list-style-type: none"> ちがう 日本にはない 日本ではめずらしい 	<p>種類が違う</p>	<p>ハエリア </p> <p>ハモン・セラノ </p> <p>美味しい 🍛</p>	<p>米の </p> <p>麺 </p> <p>野菜を麺に入れる</p>

15. 授業者による自由記述

今回の研修を通して、改めて異文化理解の大切さと難しさを実感した。日本は日常生活において外国語を使う機会が少なく、異文化に触れる機会も比較的少ないように思う。しかし、本県においても、外国にルーツを持つ児童の数は徐々に増えてきている。実は技能実習生の方に支えられている産業がとて多いことも知った。相手を理解し、互いに尊重し合うことの大切さを、子どもたちに伝えていきたい。

未来のためにわたしがやりたいこと ～ベトナムのくらし調べを通して～

栗田 和幸 熊本市立泉ヶ丘小学校

■教科・科目：総合的な学習の時間 ■対象学年（人数）：3年生（68名）

■実践年月日・期間（時数）：2023年11月～12月（7時間）

【実施概要】

1. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間	2. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
3. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の多様性に気付く ・ベトナムを通して、自分自身の生活を見つめ直す。 ・異文化への興味を喚起して、広い視野で物事を考える素地を養う。 					
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	世界には多くの国々があり、それぞれの文化があることを理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	ベトナムと日本の文化の共通点と相違点を見つけ、それぞれの文化のよさを考えようとしている。			
	③主体的に学習に取り組む態度	ベトナムと日本の文化を比べることで、自分の生活をふり返ろうとしている。			
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】 世界には多くの国々があることを知り、ベトナムを例に挙げ、実物や写真を用いることで、興味関心をもって異なる文化や習慣があることに気付くことができる単元である。例えば水に関しては、1日の1人あたりの水道の使用量が熊本市の226Lに比べ、ベトナムでは需要120Lに対して100Lほどの供給になっていることなど、ベトナムと日本を比較することで、自分たちの生活を見つめ直すきっかけにもなる。</p> <p>【児童観】 第3学年から始まった外国語活動の授業で、様々な国のあいさつや数字やじゃんけんなどの言い方について体験を通して学んできた。数字の学習では指を使って数えるやり方が違うことに動画を見て気付くことができた。また、近い国は言葉や容姿が似ていると思うなどの感想も聞かれた。 国語ではローマ字を学習し、アルファベットや他の国の文字にもとても興味を持っている。事前アンケートでは、食べ物や言葉、建物などの日常生活や、学校生活、人々についてなど多くのことについて知りたいという意見が挙がっていた。</p>				

【教材観】

ベトナムの下水処理場の動画やベトナムでのごみ箱やごみを回収されている方の写真を提示して、考える時間を確保し、来年度第4学年で学習する「水はどこから？」と「ごみはどこへ？」につながる単元に位置づける。

【指導観】

第1時では、世界の国々や言語について知り、世界についての興味関心を高めるきっかけとする。世界の国々から、一例としてベトナムを紹介する。フォトランゲージを活用したクイズ形式でベトナムの暮らしについて学んでいく。本時では、ベトナムの算数の問題に挑戦したり、次時ではダーカウをやってみたいりするなど、体験を通して関心を高められるように指導していきたい。

第6時には、ベトナムから世界全体に視点を戻して、絵本『世界がもし100人の村だったら』を参考に、「世界がもし33人の3年1組(2組)だったら」という題で、「33人のうち、○人は住む家があるけど○人は…」など世界の人口を学級の人数に置き換えて、世界の現状をとらえやすくなるように支援する。

トイレの使い方など、互いの文化の違いにふれる中で、課題を見つけていきながらも、他国の文化を見下すような考えをもつのではなく、その理由を正しく理解していき、それぞれの文化のよさを発見できるような視点で指導していきたい。また、日本は途上国に援助を行っている一方で、エネルギーや資源、食料の輸入によって産業が支えられているという現状がある。信頼、協力し合う関係づくりが大切であることに気付かせたい。

小学生の様子などを知ることで、自分たちと同じ思いや願いを持って生きていることを感じ、自分たちの生活を見つめ直すきっかけにしたい。

6. 単元計画 (全7時間)

時	ねらい	学習活動	資料等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○世界にはたくさん の国があることを 知ろう。 ・世界には多くの国が あり、世界地図の違 いなど様々な角度で 考える広い視野を身 に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知っている国の名前を 書き出す。 ○日本が中心に描かれて いないものなど、いく つかの世界地図を見比 べる。 ○世界には多様な言語が あることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図 ・あいさつの動画
2	<ul style="list-style-type: none"> ○クイズを通してベ トナムについて知 ろう。 ・実物をさわったり、 写真を見たりするこ とで、日本との共通 点や相違点を実感さ せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベトナムの位置、地形 などを知る。 ○ベトナムの品物や写真 を見て、クイズに答え る。 ○看板などの写真から日 本とのつながりを見つ ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図 ・紙幣、ベトナム語の新聞・ 漫画、焼物など ・写真

3 本時	<p>○ベトナムの小学校について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼寝など小学校の様子について知ること、関心を高める。 <p>○ベトナムの算数の教科書に挑戦してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字や記号はベトナムと同じ（似ている）ことを知り、同じようなことを学んでいることを実感させる。 	<p>○机が広がる写真を見て、何に使うのかを想像する。</p> <p>○どうして昼寝をするのかを考える。</p> <p>○日本語が学ばれている様子を視聴する。</p> <p>○ベトナムの3年生の算数の問題（かけ算、わり算）を解く。</p> <p>○教科書や問題について、日本と同じところや違うところ、気付いたことなどを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの小学校の動画・写真 ・ベトナムの日本語学習の参考書 ・ベトナムの算数の教科書（3年生） ・プリント（教科書から抜粋して印刷）
4	<p>○ダーカウと日本の羽根つきをやってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かして楽しくベトナムの文化にふれる。 	<p>○ダーカウの羽を見て、どうやって遊ぶのかを想像する。</p> <p>○グループに分かれて、円形パスをする。羽根つきもやってみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダーカウの羽 ・ダーカウの映像 ・羽子板
5	<p>○ベトナムと日本（熊本）の水の使い方について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムと日本（熊本）では水の使用量、使い方がちがうことに気付かせる。 	<p>○小学校での給水機や下水処理場、トイレ、冠水した道路の写真を見る。</p> <p>○熊本の水の使用量が九州で最も多いが、取り組みのおかげで少なくなってきたことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・ペットボトル
6	<p>○「世界がもし33人の3年1組（2組）だったら」を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の人数で考えることで世界の現状をイメージしやすくさせ、それぞれが自分事として課題意識を持つことができるように支援する。 	<p>○人数を予想することで、それぞれの問題について深く考える。</p> <p>○感じたことや考えたことを書き、班や全体で交流する。</p> <p>○未来のために解決していかなければならない課題について意見を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第6版』 ・タブレット
7	<p>○未来のためにやりたいことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を全体で振り返った後、個人で考えを文章にまとめる時間を十分に確保する。 	<p>○感じたことや考えたこと、これから取り組んでいきたいことを書き、班や全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・タブレット

7. 本時の展開（概略） 本時のねらい：ベトナムの小学校の写真や動画を見たり、算数の教科書の問題を解いたりする活動をとおして、自分たちとの共通点や相違点に気付かせる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (7分)	1 ベトナムの小学校の写真や動画を視聴する。		・ベトナムの小学校の動画・写真
	「----- ベトナムの小学生について知り、同じところと違うところを見つけよう。 -----」		
展開 (30分)	2 教室の机が広がる写真を見て、何に使うのかを班で想像して話し合う。 3 ベトナムの小学生が日本語を話している様子を視聴する。 ・児童や校舎の様子などについて、日本と同じところや違うところ、気付いたことなどを交流する。 4 児童センター（習い事）の様子を視聴する。	班で話し合うことで意欲を高める。 前時に学んだベトナムの方が日本に多くいらっしゃることを想起させる。	・両国の気温のグラフ ・ベトナム人の1日の過ごし方
まとめ (8分)	5 ベトナムの3年生の算数の問題を解く。 ・教科書や問題の出し方について、日本と同じところや違うところ、気付いたことなどを交流する。 6 本時の感想を発表する。	言葉が分からなくても問題が解けることを実感させる。	・ベトナムの算数の教科書（3年生用） ・プリント（教科書から抜粋して印刷）
8. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ベトナムと日本の文化の共通点と相違点を見つけ、それぞれの文化のよさを考えようとしている。（発言、行動観察、ワークシート）			
9. 学習方法および外部との連携 ・写真や動画を多く活用し、ベトナムの様子を実感できるようにする。 ・ペアや班での活動を多く取り入れ、活発に意見交換ができるようにする。			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・校内研修で全職員にベトナムで学んだことを発表 ・授業実践を他の教員が参観 ・全校集会で代表児童が全校児童に学んだことを発表			

11. 授業実践の様子



小学校の教室に書かれている漢字を読む活動



机が開いて何に使用されるのかを話し合う活動



ベトナムの算数の教科書の問題に取り組む様子



ベトナムのきょうかしょがほとんど、日本とわり算とか
が、ほとんどいっしょだった。日本ではわり算のマークは÷で、
ベトナムのわり算のマークは:だったからびっくりした。
1時~2時にお店はあいているのにみんなほとんど、
ねていたからびっくりした。学校の運動場がある
のに、せまいな家でびっくりした。日本の学校の運動場
の方がいいと思った。つくえが太くなくてベットになるなんて
びっくりした。ねる時もある時間もあるのがおそくなるの
が、ちょっとだけいやだと思った。今の方がいいと思った。

おそめのえいよう中にないることにとってもびっくりしました。
小学校ではつなからたつくえがあったししかも、つくえが
いらいベットがかりになると、わたしは学校でねないの
でいいな~と思いました。なによりびっくりしたことは、しゅうろんで
1回、えいしじかん35分ごとでもおそくしいしクラウン
ドが25mくらいしかないのにびっくりしたりクラウン
のじめんがコンクリートでできているのにびっくりした。おろさ
マークかつけたいとおそしろうたいベトナムのからこの子でも
かにおそくペラペラですていいな~と思いました。

算数の教科書の問題に取り組んだことで、違うところばかりでなく、自分たちと同じところもあることに気づくことができていた。また、ベトナムの小学生の生活を知る活動を通して、「昼寝がうらやましい・昼寝をするよりも早く帰りたい」など、自分たちの生活と結び付けて振り返ることができていた。



休み時間に地球儀を見ている様子



全校集会で代表児童が発表

私が夏休みに行ったベトナムについて知りたい、と取り組む前から授業を楽しみにしてくれていた児童が多く、学習意欲がとても高かった。他教科の授業や休み時間などにも「他の国ではどうだろう？」というつぶやきが出てくるほど、授業実践を通してベトナムだけでなく、世界中の国々のことについて関心が高まってきたことが感じられた。

全校集会で発表を聞いた他学年からは、「日本語を上手に話してびっくりしました。」(2年生)「日本にも素敵なおとこがたくさんあるので、それを発信していきたいと思います。」(6年生)など、様々な視点での感想が出た。

【自己評価】

(1) 苦勞した点

ベトナムで撮影した動画や写真の中から、授業のねらいに合うものを考えながら、どれを授業で活用するかを選ぶ作業に時間をかけた。

(2) 改善点

ベトナムではなぜ昼寝をする文化があるのかを気候の違いなどをグラフで見つけながら深めていく活動を準備していたが、児童の反応を見ながら実施しなかった。また、4年生で学習する水やゴミについて、熊本市の実態とベトナムの様子を比較しながら考える活動を行ったが、発達段階として少し早すぎたように感じた。他教科での学びと結び付けて単元を構成していく必要があったと思う。

(3) 成果が出た点

授業を通して、世界にはたくさんの国があり、色々な文化があることを感じるようになってきた。また、多様な考え方にふれることで、友だちとのコミュニケーションなどでも相手を理解しようという気持ちが少しずつ育ってきたように感じた。

(4) 備考

この研修に参加させていただいたことに本当に感謝している。JICA 職員の方々や一緒に学んでくれた先生方、現地で出会った多くの方々など、たくさんの人たちとの出会いのおかげで、私自身も大きく成長することができた。今後も自ら学び続ける姿勢を持ち続け、子どもたちに伝えていきたいと思う。

参考資料

現地取材！世界の暮らし⑨ ベトナム (文・写真 小原佐和子 ポプラ社)
ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第6版 (DEAR 開発教育協会)

【資料】授業で使用したスライドの一部



この机をどのように使うのでしょうか

運動場



ハイフォン市児童文化センター
・小、中学生 約4000人
週2回 (夏休みなどは週4回)



ベトナムから始まる国際理解

一ノ瀬 めぐみ 私立長崎精道小学校

■教科・科目:総合的な学習の時間(みじよ娘プラン)・国語 ■対象学年(人数):5年1組(14名)

■実践年月日・期間(時数):2023年7月~12月(12時間)

【実施概要】

1. 実践する教科・領域: 総合的な学習の時間 (みじよ娘プラン) 国語	2. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
3. 単元の目標(評価規準を意識して設定):					
<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムを通して、世界の国に興味を持ち、共通点や相違点を考えることによって、国際的な視野を持つことができる。 ・SDGsが世界共通の目標であることを理解し、今までの学びを深め、世界へ発信していくことができる。 ・世界の問題を自分事としてとらえ、積極的に世界や世界の人々とつながりをもとうと行動することができる。 					
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	他国の文化を知り、理解することができる。			
	②思考力、判断力、表現力等	国による様々な違いと差に気付き、世界中が幸せになる未来を想像し、考え行動につなげることができる。			
	③主体的に学習に取り組む態度	世界の国に興味を持ち、異文化を理解しようとする姿勢がある。			
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>教師海外研修でベトナムを訪れ、様々な人と出会い、多くのことを学んだ。ベトナムという遠くて近い国について、子どもたちに知ってもらい、その上で国際的な視点や多文化を知ることの楽しさを知り、世界に羽ばたくレディに成長してもらいたいと思い実践した。違いをおそれずに、楽しみながら自分も他者も認めて共生していく力を身に付けることは、これから子どもたちが生きていく社会では必要なことである。世界中の国、そこで生きている人々のことを想像し、その異なる文化に触れることで、自分の置かれている立場に気付くと同時に、持続可能な社会のために協力して生きていくことの大切さに気付くことができるであろう。</p>				

【児童／生徒観】

本学級の児童は、海外に大変興味を持つ児童が多い。海外で数年生活をしてきた児童が1名在籍している。他にも海外に足を運んだ経験のある児童や、この夏には1ヶ月マレーシアに留学した経験のある児童が2名いる。今回教師海外研修で訪問したベトナムへ行った経験のある児童はおらず、ベトナムについては場所も知らなかった児童が大半である。外国語の学習には積極的で、オンラインで外国のインターンと日常的な会話をすることができる。6年生にナイジェリアからの転入生が来た際は、積極的にコミュニケーションを行い、簡単な質問を英語でしたり、一緒に下校したりする姿がみられた。英語には苦手意識のある児童もいるが、外国の文化やSDGsにはとても興味をもっている。1学期に実施したアンケートでは、ベトナムについて、食事や言語、衣食住などの文化についてもっと知りたいと思っていることがわかった。



【教材観】


本単元では、日本とかわりの深い国であるベトナムを通して、世界に目を向け、世界の様々な側面について、関心を広げることを目的としている。ベトナムと日本は国交50周年という記念の年であり、また、長崎とベトナムは朱印船貿易時代からの関わりがある。ベトナムを中心として、広く世界に目を向け、いろいろな国の人々の生活・文化・自然に興味を持ってほしい。そして、調べたことや考えたことをもとに、視野を広げ、それをもとにローカルの視点で自分の身近な人々や自然とのつながりを大切にすることをねらいとしている。世界中の国と日本には同じ所や違うところがあるということを知ること、学んだことを生かして自分には何ができるかを考えることにつながる。また、日本の生活・文化・自然と他の国の生活・文化・自然と関わらせて考えることで問題を解決しようとする力や、自分の課題を設定する姿勢を育成することができる。

【指導観】

このようなことから、児童の興味関心を広げていくために、写真や動画、そして実物を活用し、ベトナムを通して世界が近くにあるということを実感させたい。夏休み前のアンケートで答えたベトナムについて気になっていることから始め、長崎に在住のベトナムの方とつながり、歌を教えてもらうなどの交流につなげたい。その学びをもとに、ベトナムとオンラインでつながる授業を行い、世界とつながることで、違いがあることの面白さを知り、住む場所が違っていても同じところや似ていることがあること、言語が違っていても伝え合うことができることに気づかせたい。交流の中で特に環境問題を取り上げ、世界共通の目標として何ができるのかお互いの話し合いを通して、考えさせたい。また、多文化共生のために長崎在住の外国人、また外国人観光客との交流につなげたい。本校では、毎年SDGsについて、世界中の国とオンラインでつながり交流するSDGs発表会に参加している。今回の学びを発表会に向けて、ベトナムという国を通して学んだことをまとめ、世界中の国とSDGsなどについてディスカッションをしていきたい。

6. 単元計画（全12時間）

時	ねらい	学習活動	資料等
1	総合（みじよ娘プラン） おかえりなさい 先輩 ベトナム講座	<ul style="list-style-type: none"> ◆ベトナム移住経験がある卒業生に特別授業をしていただく。 ◆ベトナムの基礎知識を知り、これからもっと知りたいことについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生 サイブ千賀さん
2	総合（みじよ娘プラン） もっと知りたいベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ◆知りたいこと、見てきてほしいことについて、実際の経験を紹介する。 ・アオザイ・ノンラー ・食べ物 ・ベトナム語 ・ベトナムの街並み 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・ベトナムの写真（教師海外研修） ・アオザイ ・ノンラー
3	総合（みじよ娘プラン） ベトナムの人にベトナムの歌を教えてもらおう	<ul style="list-style-type: none"> ◆長崎在住のベトナムの人に来校してもらおう。 ・あいさつ 自己紹介 ◆ベトナム語で歌を歌えるように練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> YouTube ドラえもんの歌 ベトナム語バージョン
4 本時	総合（みじよ娘プラン） ベトナムの小学校と交流しよう	<ul style="list-style-type: none"> ◆歌を歌ったり、お互いに質問を事前に考えたりして交流会をする。 ◆世界のゴミ問題についてお互いに意見を交流する。 ＜フォトランゲージ＞ ◆言葉が違っていても交流ができることの大切さに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom ・パワーポイント

5 本時	総合（み じょ娘プラン） ベトナムから考える 多文化共生	◆言葉が分からないとどんなことになるか考 える。 <シミュレーション> ◆日本在住の外国人や外国人観光客と交流し ていくことの大切さを知る。 <ケーススタディ>	・水の入ったペット ボトル3本 水・砂糖水・塩水 ・JICA九州発行 「多文化共生って なんだろう？」 ・ワークシート
6～7	総合（み じょ娘プラン） 国語 たずねびと ツアーに 行こう	原爆資料館 平和公園への見学 ◆長崎の原爆の惨 状について知 り、平和につい て考える。 ◆SDGs16 平和に ついて、持続 可能な社会に なるためにで きることを考 える。 ◆海外からの観光 客に話しかけ、 長崎を紹介す る。	 <p>（校外学習） 長崎原爆資料館 国立長崎原爆死没 者追悼平和会館 平和公園 原爆落下中心地公 園 無縁死没者納骨記 念堂</p>
8～10	総合（み じょ娘プラン） SDGs オン ライン 発表会に向 けて	◆発表に向けての原稿づくり、動画撮影を行 う。	・タブレット ・ロイロノート
11～12	総合（み じょ娘プラン） SDGs オン ライ ン発表会	◆世界中の学校とつながり、SGDs というテー マについて語り合い、自分事として考えて いく。	・Zoom ・ロイロノート ・ワークシート

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<p>7. 本時の展開(概略)</p> <p>本時のねらい:ベトナムの子どもたちとの交流を通して、ベトナムを身近に感じ、異文化理解を深める。また、非言語でも交流が出来ること、言語が分かればもっと交流が出来ることに気づき、長崎に住んでいる海外の人や外国人観光客と交流する積極性を養う。</p> <p>導入 (10分)</p> <p>展開 (20分)</p>	<p>1. めあてを確認し、ベトナムのグエンチーフオン小学校と Zoom でつながる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ベトナムの小学生と交流しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ(ベトナム語・日本語) ・歌の交流 <ul style="list-style-type: none"> ①日本 ドラえもんの歌(ベトナム語) ②ベトナム 夢を叶えてドラえもん ③ベトナム 昨日のように <p>2. ゴミ問題について考える。</p> <p><フォトランゲージ></p> <p>A・ベトナム ベトナムの写真① ゴミ箱 ベトナムの写真② 紙の袋の歯ブラシ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">感想(長崎)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・分別をあまりしないでいいので、簡単。 ・紙の製品が多いのは環境によい。 <p>B・長崎 長崎の写真 分別ポスター</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">感想(ベトナム)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎は分別が多くて大変だ。 ・日本はリサイクルをよくしている。 <p>C・鹿児島県大崎町 大崎町の分別のポスター 大崎町はどんな分別をしているか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">感想(長崎・ベトナム)</div> <p>(良いところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルが出来ていい。 ・お金を使わないでいい。 <p>(悪いところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別が大変 ・みんながこれを理解することが難しい 	<p>有機物・無機物に分けて捨てられているゴミ箱の写真を見て、その後どのようにしているのかをベトナムの人に聞く。</p> <p>長崎が感想を伝える。</p> <p>長崎の分別を説明する。どのように感じたか聞く。</p> <p>大崎町は、新しい焼却場を建てるための予算が少ないので、リサイクルが進んでいることを伝える。</p>	<p>歌詞カード</p>

<p>まとめ (10分)</p>	<p>3. 3つの分別を見て、気付いたことを交流</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>分別さえすれば、ゴミ問題は解決するだろうか</p> </div> <p>4. これからのアクションプランを考える ・世界の問題として、ゴミを出すことを減らすことが大切。</p> <p>5. 感想交流</p>	<p>分別さえすれば、世界のゴミ問題は解決するのか問いかける。</p>	
<p>導入 (5分)</p> <p>展開 (10分)</p>	<p>1. 交流のふりかえり</p> <p>2. 言葉がわからないとはどういうことか考える。 <シミュレーション></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>設定 「ベトナム旅行中、友達が病気になりました。 あなたは薬局に薬を買いに行きます。」 薬局には3種類のコップが置いてある。 ・洗剤 xà phòng (塩水) ・水 Nước ・薬 thuốc (砂糖水) その中から、薬だと思える物を選んで買ってもらおう。みんなで選んだコップを、病人役に飲んでもらう。どんな味がしたか、何だと思えるか、病気は治ったかを答える。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>言葉がわからないとどんなことになるか考えよう</p> </div>	<p>ノンバーバルコミュニケーションのメリットとデメリットに気付かせる。</p> <p>希望者がいれば、病気役3名に実際に飲んでもらう。</p>	<p>3つのコップ 塩水 砂糖水 水</p>
<p>(15分)</p>	<p>3. 日本に住んでいる外国人のことを考える <ケーススタディ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>日本在住のベトナム人のゴミ問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語がまだよくわからない ・勉強したいが、時間がなく、バスの乗り方も分からない。 ・役場にも電話できない。 ・ゴミを捨てたら、近所のおじさんに「今日は捨ててはいけない」と怒られた。 </div> <p>どんな気持ちで毎日過ごしているのか 必要なサポートは何か あなたが友達ならどうするか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>私たちが外国人にできることはなんだろう</p> </div>		<p>ワークシート</p>

<p>まとめ (5分)</p>	<p>グループに分かれて、話し合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話しかけること ・どんな国か知ること ・積極的に交流すること <p>4. 外国人観光客とどのようなことを交流するか考えよう 明日のたずねびとツアーで外国人観光客と交流してみることを伝える。</p> <p>① あいさつ ② 自己紹介 ③ 質問1つ</p> <p>例) あなたの国の有名な食べ物 あなたの国のありがとう</p> <p>④ 伝えたいことがあれば付け加えても良い 例) 原爆のこと・ゴミの分別 長崎の美味しい食べ物 教えたい日本語</p> <p>5. 今日の感想を発表する</p>	<p>言葉は通じなくても交流ができることに気付かせる。</p>	<p>・たずねびとツアーしおり</p>
---------------------	---	---------------------------------	---------------------

8. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

- ・多様な文化を知り、理解することができたか。（観察）
- ・国による様々な違いと差に気付き、世界中が幸せになる未来を想像し、考え行動につなげることができたか。（ワークシート・話し合い）
- ・世界の国に興味を持ち、異文化を理解しようとする姿勢があったか。（観察・ワークシート）

9. 学習方法および外部との連携

- ・卒業生 サイブ千賀さん（渡航前のベトナム講座）

卒業生ということもあり、昔の学校での生活から、ベトナムと日本について5年生にもわかりやすく教えていただいた。

- ・長崎在住ベトナム人 Linh tò さん（ドラえもんの歌の指導）

知り合いが以前ベトナム人に日本語を教えていたことを聞き、そこから紹介していただいた。長崎市内で介護の仕事をしていて、日本在住5年の方である。日本に来て、大変だったことやベトナム語について教えていただいた。選曲の相談にもものってくさった。

- ・長崎県ベトナム人協会会長 ホアン ティ ミハオさん（交流会での通訳）

JICA 長崎デスクの小田智子さんにご紹介いただいた。学校の近くに住んでいらっしゃることもあり、快く引き受けてくださった。ミハオさんとベトナムの小学校とのベトナム語でのやりとりの様子を子どもたちがとても驚いて聞いていた。また、ベトナムがオンライン交流中にどんなことを話しているかなど細かいことも教えていただいたおかげでうまく進めることができたと思う。

- ・グエンチーフオン小学校 Hieu Nguyen Duc 先生

JICA 九州の戸崎さんから、つないでいただいた。主にメールでやり取りを行った。日本語の先生ということで、主に日本語でやりとりをした。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・教員へのベトナム講座
- ・全学年へのベトナムを通じた国際理解講座
- ・近隣の学園系列のホームアーツスクールでのベトナム講座

	<p>◎「もうすぐ始まるね。」三時間目が始まり、後ろには先生やいろいろなところから来られたお客さんがいる。そんな中、教室はざわざわしている。オンラインでベトナムの小学校と交流会をする。オンラインが始まった。まずは、私達が、ベトナム語でドラえもんを歌った。練習のときよりも少し声が小さかったような気もするけれど、とても上手に歌えたと思う。ベトナムの小学校は、ドラえもんの歌を日本語で歌ってくれた。私達は紙を見て歌ったが、ベトナムは何も見ずに歌っていてすごかった。次に、ベトナムから日本へ、日本からベトナムへの質問をした。日本からベトナムへはご飯について聞いた。すると、朝食は外食でおどろいた。私は、朝起きて ゆっくり外食をする時間がないから、休みの日に、朝マックを食べたりするだけだ。給食は、同じようなものを食べていてそうなんだと思った。</p> <p>最後に日本とベトナムで SDGs について考えた。ベトナムは入れ物が紙だったり、果物は入れ物に入れずに売ってあったりと SDGs に取り組んでいる。しかし日本は、入れ物は、プラスチックが多かったり、果物はプラスチックの入れ物に入れられたり、ビニールのふくろに入れられて売られてある。それを比べると、日本は、まだまだだと思う。ゴミの分別については、ベトナムでは、ゴミを毎日家の外に出しておいたら、勝手に持って行ってくれるが、日本は、出す日は決まっているし、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ごみなどで分別 しないとイケない。今、国語でしているグラフや表を用いて考えようでの学習の、くらしにくいからしやすいかで考えると、ベトナムはくらしやすいと思うが、日本はくらしにくいと思う。配られた プリントのベトナム人が日本にいて大変なことで、ゴミの分別が大変で、私はいつものことだから、考えないけど、確かに大変だと改めて思う。これから、世界では、もっと考え直すところがたくさんあると思った。</p>
15. 授業者による自由記述	<p>ベトナムを起点に、様々な文化に触れるきっかけになった。今回の交流会を通して、海外に興味を持つ人、日本にいる外国人に対してできることがあるのではと考えた人、言葉の大切さに気付いた人がいた。実際に話をしたり、同じ歌を同じ言語で歌い合ったりと、繋がる経験が、自分事として、SDGs を始め、多文化共生につながっていたと実感した。</p> <p>また、今回は全校を対象にベトナムについて話をした。アオザイで廊下を歩くだけで、子どもたちが興味を持って話しかけてくれた。服だけでも多文化を知る大きなきっかけになり、大きな印象をあたえることを感じた。中学生は JICA の活動に興味を持った人もいた。そして、一緒に研修に参加した砂田葵先生考案のベトナム給食は、違う文化を知る大きなきっかけになった。話を聞いて「食べてみたい」と思った事が現実化して、とても嬉しそうな様子が印象的だった。本校は国際交流がさかんで、ヨーロッパや英語圏の国、または長崎と近い中国や韓国とはよく交流をしていた。東南アジアで、英語圏ではないベトナムとの関わりがもてたのは、学校として大きな一歩だったと思う。これをきっかけにして、実際に足を運んで交流ができ、それが続いていくようにこれからつないでいきたいと思う。</p> <p>そして、今回の授業を通して、在留ベトナム人とのつながりが持てたのは、大きかった。ベトナムに行った話はもちろんのこと、実際に長崎に住んで感じたことや日本の印象について話を聞くことができた。また、ベトナム人協会のイベントなどもご紹介して頂き、これからベトナムがより近く感じるようになるのがとても楽しみだ。</p>

授業の様子 写真



他の学年でのベトナム講座
小4～6年生



小1～3年生



中学生



国際理解に大切なこと

久米 勇一郎 佐賀市立城西中学校

■教科・科目：道徳 ■対象学年（人数）：1年2組（31名）

■実践年月日・期間（時数）：2023年11月（2時間）

【実施概要】

1. 実践する教科・領域：道徳	2. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
3. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 開発途上国であるベトナムについての教師の体験を知り、他国の人々との結びつきを大切にするために必要なことは何かを学び、他国の文化や伝統を尊重する心情を育てる。					
4. 単元の評価規準	①知識及び技能				
	②思考力、判断力、表現力等	ベトナムでの支援活動における問題点に真摯に向き合い、その解決方法について話し合い、国際理解に必要なことについて考えることができる。			
	③主体的に学習に取り組む態度	グループワークを通じて多面的な意見を知りながら、国際理解についての深い学びにつなげることができる。			
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童／生徒観、教材観、指導観）	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】 グローバルな相互依存関係にある国際社会においては、国際的な視野に立ち、世界情勢に目を向けながら、国際理解に努めることが必要である。そのためには、自国だけではなく、違いは違いと認めつつも、他の地域や国々の歴史や文化、伝統を理解し尊重する態度が求められる。</p> <p>【児童／生徒観】 本校は、主に2つの小学校から進学する。入学当初は、初対面の人も多く、緊張しながら学校生活を過ごしてきた。1学期を終え、中学校の学習、生活に慣れてきている反面、注意を払うべき人間関係も見受けられる。生徒のグループ化も見られ、上下関係も垣間見られることもある。その都度、指導をし、円滑な人間関係の構築に努めてきた。国際理解教育に関しては、外国語や社会の授業の中で学習をするが、諸外国と日本の結びつきについて、認識が薄い子どもが多くみられる。将来、国際社会に進む子どもたちにとって国際理解教育を進めることは大変意義のあることであると考えます。</p>				

【教材観】

本教材は、教諭が、教師海外研修でベトナムに視察に行った際に体験したことをもとに異文化理解や異文化共生について子どもたちに考えさせることができる教師の体験や、JICA 草の根技術協力事業の視察の様子などから、日本と開発途上国のつながりの深さを感じることができる。

【指導観】

指導にあたっては、子どもたちのもつ開発途上国のイメージと実際のギャップに焦点を当てながら、日本と開発途上国の関係の深さに気づかせていきたい。教師の体験したベトナムの街並みや施設、社会問題を取り上げながら、国際的な視野に立つ素地を育ませていく。その時に開発途上国と先進国は共同で成長するものである優劣をつけるものではないことを認識させ、授業を進めていきたい。授業の終末には、個人、グループで他国の人々にできることは何かを考えさせ、国際的な視野をもって開発途上国、自国の問題について考えさせていきたい。

6. 単元計画（全2時間）

時	ねらい	学習活動	資料等
1	事前学習 開発途上国についての事前調査	開発途上国とは何かについて知る。 社会科等で学んだことや、途上国についてのイメージについて考える。	
2 本時	国際理解で大切なことは何だろう？ ○開発途上国であるベトナムについての教師の体験を知り、他国の人々との結びつきを大切にするために必要なことは何かを学び、他国の文化や伝統を尊重する心情を育てる。	○JICA について知る。 ○ベトナムについて知り、ベトナムの人口や小学校、ハイフォン市の浄水場について知る。 ○JICA 海外協力隊隊員の派遣先の問題について考える。	

<p>7. 本時の展開（概略）</p> <p>本時のねらい：開発途上国であるベトナムについての教師の体験を知り、他国の人々との結びつきを大切にするために必要なことは何かを学び、他国の文化や伝統を尊重する心情を育てる。</p>			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 開発途上国について考える 「開発途上国はどんな国だろうか。」 事前アンケートの子どもたちの開発途上国のイメージを提示する。 本時のめあてを確認する。 		電子黒板
展開 (30分)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">私たちが国際理解するために必要なことは何か考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 2. ベトナムについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの人口 ・ベトナムの貿易関係 ・ベトナムの経済成長について ・身近なベトナムについて ・ベトナムで起こっている問題について（インフラ設備、肥満問題など） 3. 教師の教師海外研修の様子を伝える。 4. JICA 隊員がベトナムで支援を行うときに感じた文化的な違いについて共有し、解決策を話し合う。 個人で考え班で意見交換を行う。 	<p>開発途上国について、必ず起こりうること、日本でも同じような問題が起こったことを伝える。</p> <p>子どもたちが関心を持てるように、対話をしながら体験談を伝える。</p> <p>個人で考え班で意見交換を行う。</p>	開発途上国ではあるが経済発展が大きく、ITも普及していることから、イメージとは大きく異なることを考えさせたい。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 5. 他国の人々のために何かをしようとするとき、あなたが大切にしたいことはどのようなことだろう。 		
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>ワークシートの記述や、グループワークを通じて、国際理解や他国の人々との結びつきを大切さについての考えようとする態度がみられる。 (発言、行動観察、ワークシート)</p>			
<p>9. 学習方法および外部との連携</p> <p>教師が体験したベトナムの様子や、JICA 海外協力隊隊員に聞いた実際の課題について子どもたちに考えさせることで国際理解について実践的な態度を育むことが期待される。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践の他の教員が参観 ・本校ではローテーション道徳を実践している。今回の授業実践を学年全体で取り組み、来年度の道徳の「国際理解」の観点で発展的なグループディスカッションを行う。 			

【自己評価】

11. 苦勞した点	今回の教師海外研修で体験したこと全てを子どもたちに伝えたいが、子どもたちに国際理解の大切さについて考えさせる上での資料の選択に苦心した。体験談を伝えるだけでなく、体験談を通じて、国際理解教育の導入として子どもたちに伝えるための課題設定、生徒の実態に応じた効果的なディスカッションについての授業づくりに苦勞した。
12. 改善点	時間設定を2時間として授業を構築したが、中学1年生ということもあり、「開発途上国」についての予備知識が少ない生徒が多かった。そのため、生徒が身近に「国際理解」について考える工夫が必要であると考えられる。また、JICA 海外協力隊隊員の事例に関するディスカッションでは、子どもたちの実体験から考えにくい題材もあった。子どもたちの成長段階に応じた課題設定が必要であると感じた。
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の実体験やベトナムと佐賀の関係性を伝えることで、開発途上国への支援の必要性や、多文化共生・多文化理解の素地を養うことができた。 ・JICA 海外協力隊隊員の実際に合ったケースの解決策を子どもたち自身でディスカッションすることによって、国際理解教育における実践的な態度が身についた。 <p>今回は2つのケースについて考えたが、今回は特に現地の幼稚園に派遣された隊員の事例が子どもたちの今までの実体験からアイデアを出すことができた。現地の職員に向けて、幼稚園に通わせる保護者に向けて、先生の立場として子どもたちに向けて、多面的に考え、ディスカッションを行うことができた。今回の事例を導入として、今後の国際理解教育ではより発展的な課題について伝えることが期待できる。</p> <p>○生徒のディスカッションのテーマ 手洗い・うがい文化が浸透しないベトナムの幼稚園にあなたが JICA 隊員だったらどのように支援するだろうか。</p> <p>生徒の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を行う。 ・ベトナムの文化、風習を理解して取り組む。 ・手洗いのメリット、デメリットを伝える。 ・大人に手洗いうがいの効果を伝える。 ・子どもに分かりやすいように絵本などで手洗いうがいの大切さを教える。 ・子供を通じて、大人にも教える。 ・科学的根拠を示す。

14. 授業者による自由記述	今後学校や他の職員に「国際理解教育」を推進していくために必要なことは、誰もが実践できる教材づくりが課題であると考えます。そのためには、研修を様々な形で伝える必要がある。今回の教師海外研修の経験を広く伝えることができるように、努めていきたい。
----------------	--



参考資料：『JICA つながる世界と日本』

https://www.jica.go.jp/aboutoda/find_the_link/

マーケティングのひろがり

宮脇 滉平 大分県立情報科学高等学校

■教科・科目：商業 ■対象学年（人数）：2年4組（38名）

■実践年月日・期間（時数）：2023年11月21日（火）

【実施概要】

1. 実践する教科・領域： マーケティング	2. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
3. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 観光地におけるマーケティングに関する知識、技術などを基盤として消費者の動向や訪日外国人への対応、海外におけるマーケティングに関する具体的な事例など科学的な根拠に基づいて、組織の一員としての役割を果たすことができるようになる。					
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	日本国内と海外でのマーケティング活動についての違いを理解するとともに、事例と関連付けて知識を身に付けている。			
	②思考力、判断力、表現力等	観光地におけるマーケティングの課題を発見し、事例から得られた情報を科学的に分析している。			
	③主体的に学習に取り組む態度	観光地マーケティングについて自ら学び、必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			

7. 本時の展開（概略） 本時のねらい：観光地マーケティングの課題を知り、サステナブルな観光の重要性について説明できるようになる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料等（教材）
導入（5分）	ベトナムの小売店や決済方法など日本との違いを知る	事例を見ながら日本との違いについて考えさせる	
展開（40分）	ベトナムにある日本製品と日本にあるベトナム製品について考える（価格のギャップ） 観光地マーケティングとはどのような活動か、その課題は何か ベトナムの観光地、大分の観光地について、どうすればオーバーツーリズムの問題を解決できるかアイデアを出す（発表する）	なぜ日本にあるベトナム製品は高いものと安いものがあるのか、その違いは何か考えさせる 観光地マーケティングをする目的やどのような効果があるのかを理解させる 実際に起きているオーバーツーリズムの問題について、グループで話し合い、ChatGPTを活用してアイデアを発表させる。	
まとめ（5分）	振り返り	本時の内容について、自分の言葉で表現し、振り返りをおこなう	
6. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） [A] 知識・技能 [B] 思考・判断・表現 [C] 主体的に学びに向かう態度 グループ活動 [C] グループ活動の結果 [B] 授業プリント [A] [B]			
7. 学習方法および外部との連携 ・写真を多く活用し、ベトナムの様子を実感できるようにする。 ・グループ活動を取り入れ、活発に意見交換ができるようにする。 ・ChatGPTを活用し、プロンプティングの工夫をしながらアイデアを考える。 ・1人1台端末（iPad）のMetaMoJi Classroomでノートを取る。			
8. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・研究授業 ・教職員向けの研修			

【自己評価】

<p>9. 苦勞した点</p>	<p>訪越の際に、あらかじめ授業をすることを想定して様々な写真や動画を撮っていたが、具体的に授業の内容を考えていく中で気づき、もっと授業の詳細案を考えておけばさらに多くの写真や動画を授業で活用できたと感じる。</p>																																													
<p>10. 改善点</p>	<p>生徒にすべて情報を与えるのではなく、生徒がより深く考えるような授業展開にすることができればより良い授業になったと思う。 (1時間完結ではなく、複数の時間を使って)</p>																																													
<p>11. 成果が出た点</p>	<p>自分が実際に目にしたベトナムの事例を扱うことで、生徒がより興味をもって聞くとともに、課題についてタニンゴトではなく、ジブンゴトとしてアイデアを出していた。ChatGPTを活用した際、生徒がスムーズに活用することができていた。また、授業の最後にはサステナブルな観光の重要性について生徒が自分の言葉で説明できており、この授業の目標を達成することができた。1度の特別授業とならないようにこれからも継続的に題材として取り上げ、3年次の「観光ビジネス」などの科目での学習につなげていきたい。</p>																																													
<p>12. 学びの軌跡</p>	<p>授業をおこなう前は外国のマーケティングや、観光地マーケティングについて全く知識のなかった生徒たちが、授業後には観光地マーケティングの課題を踏まえ、どのように観光地を活性化させていくべきかといったサステナブルな（長期的な）視点でアイデアを考えることができるようになった。</p> <p>[授業ノートの振り返り (R80) の一部]</p> <table border="1" data-bbox="491 1211 1198 1435"> <tr><td>観光地マーケティングでは、</td><td>ただ</td><td>16</td></tr> <tr><td>観光客を増やせばいいと思</td><td>っていた</td><td>32</td></tr> <tr><td>した。しかし、課題は多くあ</td><td>るため</td><td>48</td></tr> <tr><td>あらゆる面を両立した持続</td><td>可能な観</td><td>64</td></tr> <tr><td>光の実現が大切だとわかり</td><td>ました。</td><td>80</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="491 1514 1198 1738"> <tr><td>1年の時にした総探で似た課</td><td>題に</td><td>16</td></tr> <tr><td>いて考えたことがありまし</td><td>た。しか</td><td>32</td></tr> <tr><td>しマーケティングの視点で考</td><td>えると</td><td>48</td></tr> <tr><td>新しい発見があり、おもしろ</td><td>かった。</td><td>64</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>80</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="491 1809 1198 2033"> <tr><td>観光地マーケティングでは、</td><td>地域の</td><td>16</td></tr> <tr><td>活性化や移住者の増加が観</td><td>光地の</td><td>32</td></tr> <tr><td>魅力を向上させる活動のこ</td><td>と。しか</td><td>48</td></tr> <tr><td>し、一時的なものではなく、</td><td>未来に</td><td>64</td></tr> <tr><td>続く施策が必要。</td><td></td><td>80</td></tr> </table>	観光地マーケティングでは、	ただ	16	観光客を増やせばいいと思	っていた	32	した。しかし、課題は多くあ	るため	48	あらゆる面を両立した持続	可能な観	64	光の実現が大切だとわかり	ました。	80	1年の時にした総探で似た課	題に	16	いて考えたことがありまし	た。しか	32	しマーケティングの視点で考	えると	48	新しい発見があり、おもしろ	かった。	64			80	観光地マーケティングでは、	地域の	16	活性化や移住者の増加が観	光地の	32	魅力を向上させる活動のこ	と。しか	48	し、一時的なものではなく、	未来に	64	続く施策が必要。		80
観光地マーケティングでは、	ただ	16																																												
観光客を増やせばいいと思	っていた	32																																												
した。しかし、課題は多くあ	るため	48																																												
あらゆる面を両立した持続	可能な観	64																																												
光の実現が大切だとわかり	ました。	80																																												
1年の時にした総探で似た課	題に	16																																												
いて考えたことがありまし	た。しか	32																																												
しマーケティングの視点で考	えると	48																																												
新しい発見があり、おもしろ	かった。	64																																												
		80																																												
観光地マーケティングでは、	地域の	16																																												
活性化や移住者の増加が観	光地の	32																																												
魅力を向上させる活動のこ	と。しか	48																																												
し、一時的なものではなく、	未来に	64																																												
続く施策が必要。		80																																												

<p>13. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の授業を通して、実際に自分の目で見たこと、感じたことを生徒に伝えることの重要性を再確認することができた。教科書や副教材などで諸外国の取り組みや観光地について扱うことはあるが、現実味がなく、生徒はタニングトとして捉えているように感じる。今回、本研修でベトナムの様子を写真や動画を使って紹介したり、ベトナムの観光地と大分県の観光地を事例として取り上げることで、生徒たちは今回の内容がタニングトではなく、ジブンゴト（自分に関わりのある事）として捉えることができているように感じる。授業に主体的に取り組む、「自分たちのアイデアで観光地の課題を解決できないか」と真剣に考える様子が見えた。</p> <p>今後グローバル化がさらに進み、外国人労働者や、インバウンドの増加に伴い教育現場でも国際理解や多文化共生の視点が今まで以上に必要となる。これからも積極的に色々な研修に参加していき、自己研鑽し未来を担う子どもたちに還元していきたい。</p>
-----------------------	--

【授業資料（一部）】

<p>ベトナムの小売店</p>  <p>野菜生活 231円</p>  <p>おにぎり 162円</p>	<p>観光地マーケティング</p> <p>Point 多様なステークホルダーの連携が必要！</p> 
<p>オーバーツーリズム（観光公害）</p>  <p>ゴミの散乱 海へのポイ捨て</p>	<p>オーバーツーリズム（観光公害）</p>  <p>経済の活性化 移住者の増加</p> <p>両立</p> <p>地域住民への配慮 環境の保全</p> <p>サステナブル（持続可能）な観光の実現が大切</p>

【授業の様子】



地理探求のとりくみ—世界の衣食住を理解する—

松田 倫明 福岡県立大牟田北高等学校

- 教科・科目：地理探求 ■ 対象学年（人数）：地理探究受講者（6名）
- 実践年月日・期間（時数）：2023年12月12日（火）5・6限（1時間）

【実施概要】

1. 実践する教科・領域： 地理歴史科・地理探究	2. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
3. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の人々の生活文化を構成する衣食住を様々な視点から考察し、生活文化の多様性や変容、異文化を尊重し理解する重要性などを理解できる。特に近年、国際関係が深まっているベトナムと日本に注目して理解する。 ・ 探究活動を通して、調査結果を考察し、表現する力を育む。 					
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	世界各地にみられる生活文化の衣食住の特色に注目し、生活文化は地理的環境と深いかかわりがあること、多様性を生んでいること、地理的環境の変化による影響などについて理解する。			
	②思考力、判断力、表現力など	世界各地でみられる生活文化についての特徴や自然・社会的条件に注目して考察・表現する。Google スライドを用いた口頭発表では聞き手に伝わるよう表現する。			
	③主体的に学習に取り組む態度	生徒が主体的に生活文化の多様性と国際理解について追究し、よりよい社会の実現を考察しようとしている。			
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義、教材観】 世界の諸地域でみられる生活文化のしくみを場所や人間、自然環境との関係などに注目して、世界の諸地域の生活文化を様々な視点から考察し表現する力を育成する。また世界の生活文化の多様性や変容、自他の文化を理解することと、国際理解を図ることの重要性など理解できるようにすることをねらいとしている。				

【生徒観】

生徒は、日常でインターネット、スマートフォン、学校で配付されているタブレットなど様々な情報・ツールに触れており、自分に必要とする情報を早く収集する力をもっている。

授業では、意欲的な姿勢で取り組む生徒が多く見受けられるが、自分の意見等をうまく表現できることは苦手な生徒が多い。

生徒に実施したベトナムに関する事前アンケートでは、ベトナムに関する知識がない生徒が一部見受けられたが、ベトナムの流行など若者に関する文化などに興味をもっている回答が多かった。

【指導観】

指導にあたっては、系統地理分野の地形・気候の単元の指導を終えて授業を実施する。既に学んでいる気候分野の知識と世界の生活文化の諸地域の衣・食・住の特徴を関連付け、自然条件が生活に影響を与えることを理解させる。また社会条件が衣・食・住の特徴に影響を与えていることも理解させることを目標とする。そこで生活文化の多様性を理解するために世界の諸地域について探究する活動を行い課題に目を向ける態度を身に付けさせたい。

6. 単元計画（全5時間）			
時	ねらい	学習活動	資料等
1	<ul style="list-style-type: none"> 自ら選んだ任意の地域の特徴を理解し、現地への移動手段や移動目的などを計画できる。 ベトナムの写真を視聴し、大牟田とハノイ等の生活文化の類似点、相違点を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 私の海外旅行計画（文化祭ポスター発表）の振り返り JICA九州 教師海外研修の現地視察報告 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の発表で使用したポスター ベトナムで撮影した写真を使用したスライド
2	<ul style="list-style-type: none"> 世界の生活文化、特に「衣食住」の特徴と多様性を自然・社会条件の視点から理解し、説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の「衣」の特徴における社会条件・自然条件 世界の「食」の特徴における社会条件・自然条件 世界の「住」の特徴における社会条件・自然条件 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、資料集、スライドを使用
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> 世界の衣食住の文化と他地域とのつながりについて整理して表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 任意の地域における衣食住の文化を自然条件と社会条件で整理し、他地域とのつながりを理解する。 	

7. 本時の展開（概略） 本時のねらい：任意の地域を設定し、自然条件と社会条件の視点から「衣食住」の特徴についてスライドにすることができ、発表することができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問 および学習活動	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
導入 （10分）	（一斉：講義形式） ・本時の説明 ・本時までの振り返り	・事前の板書	・Google スライド
展開 （70分）	（発表会形式） ・個人発表 イギリス フランス 韓国 シンガポール カナダ オランダ （一斉：講義形式） ・ベトナムの衣食住 ・生活文化の地域的差異と世界的な画一化	・ファシリテーターを行う ・質疑応答の時間の確保 ・発表が苦手な生徒への声掛け ・聞き手はメモを取るよう に指示 ・視聴覚資料をみて、各地 の生活文化の形式を想像 できるように支援する。	・Google Forms （評価シート） ・教科書 p198-201 ・資料集 p218-221
まとめ （10分）	（一斉：講義形式） ・本時のまとめと振り返り		・Google Forms （本時の振り返り）
8. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） 任意の地域を自ら設定し、自然・社会条件の視点から「衣・食・住」のうち1分野の特徴について探究し、まとめ内容をスライドにすることができる【思・判・表・主】 自ら発表を行った地域と他の生徒が発表した地域の生活文化の特徴の相違点や類似点を比較し、その背景について考察することができる【判・主】			
9. 学習方法および外部との連携 ・教師海外研修参加教員・スタッフとの情報交換 ・大牟田市在住のベトナム料理店経営者ほか（インタビュー）			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・家庭科の食物関連分野における世界の料理についての教員間での意見交換 ・JOCV 経験者（同僚）の講演会またはHR 中の講話			

【自己評価】

11. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席する生徒が少なく、スライドの作成時間にあてる時間が少なくなってしまった。 ・インターネットを活用した調べ方が中心となってしまって図書を使った調査や聞き取り調査が疎かになってしまった。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域への興味関心が湧くきっかけとなる教材の開発、機会の設定が必要である。 ・世界の生活文化の特徴と自然・社会条件と関連させる想像ができるような準備が必要である。 ・発表を聞く生徒から質問が出やすい環境づくりが必要である。
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある外国を様々な視点から調べて考察する力がついた。 ・スライドやポスターを使った発表を行ったことで多様な表現力がついた。 ・探究活動後、授業後の振り返りの習慣が定着した。
14. 学びの軌跡	<p><授業の様子></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ポスター発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>調べ学習</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>発表会の様子①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>発表会の様子②</p> </div> </div> <p><生徒が調べた内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールに見られる様々な住居の様式 ・フランスの代表パン「フランスパン」 ・オランダの建物はなぜ傾いているのか ・韓国の食事のマナー ・イギリスのキルト ・カナダのイグルー <p><本授業の振り返り（生徒の感想）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢山噛んだのが少し悔しかったです。 ・発表を終えた時、自分がレベルアップしたような気がしました。 ・今まで見たことがあっても調べてみようと思うほどの興味がなかったものばかりだったのでとても勉強になりました。 ・自分の調べたことを相手に伝えることができよかったです。 ・ものすごく緊張した。

15. 授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none">・生徒が探究活動を通して一人ひとり個性のある発表ができて良かった。・継続して世界の諸地域に興味をもって、国際理解を深めてほしい。・将来は高校周辺に住む外国人と交流できるような授業を研究したい。
----------------	--

参考資料：

・使用教材

新詳地理探究（帝国書院）P. 198～201（令和5年1月20日発行）

新詳地理資料 COMPLETE2023（帝国書院）P. 218～221（令和5年2月25日発行）

・使用した ICT・アプリ

プロジェクター・PC

Google Chromebook

Google スライド

Google Forms

こうなったらいいな！私たちの未来の食卓

砂田 葵 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」

■教科・科目：栄養教諭 ■対象学年（人数）：1年（26名）

■実践年月日・期間（時数）：2023年9月～10月（3時間）

【実施概要】

1. 実践する教科・領域： 総合的な探求の時間	2. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
3. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ○ 世界の食文化の多様性についての情報を、資料を用いて調べることができる。（知識及び技能） ○ 日本と世界各国の食文化についての類似点や相違点を比べて整理したり、グループの意見をまとめて書き出したりすることができる。（思考力・判断力・表現力等） ○ 自分で見つけた食生活についての課題解決方法について意見を出すことができる。（学びに向かう力・人間性等）					
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	世界の食卓の写真に載っている食べ物や飲み物、食器等を探し、ワークシートに記入している。			
	②思考力、判断力、表現力等	フォトランゲージやランキングのグループ協議で、日本と他国の類似点や相違点についての意見を伝え合っている。			
	③主体的に学習に取り組む態度	ワークショップのグループ協議で課題解決方法について意見を出している。			
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	本校は軽度の知的障がいをもつ生徒を対象とする全寮制の特別支援学校である。1学年の生徒は、入学して半年が経ち、少しずつ学校や寄宿舎の生活に慣れ、学習規律や校則を守って行動しようとする態度が身に付いてきている。給食はマナーを守って食べることができており、後片付けも丁寧に行うことができている。食に関する国際理解教育については、毎月実施している「世界の料理」給食を中心とした取組を進めている。1学期に実施したベトナム料理の給食では、残食はなく、「おいしかった」「他の国の料理も知りたい」という意見が生徒から複数挙がった。このことから、「世界の料理」給食を通して、生徒の世界の食文化に対する興味や関心をもつ機会を与えることができたといえる。しかし、世界の食料事情と自分自身の食生活とのつながりを理解するまでには至っていない。本単元は、これらの生徒たちの実態を受けて設定したものである。				

<p>本単元の指導にあたっては、生徒が、自分たちの未来の食生活をよりよくしようと考え、実践しようとする態度を養うことをねらいとしている。</p> <p>第一次では、世界の食文化の多様性を調べるために、世界各国の食卓の写真にうつっているものを書き出す活動を行う。第二次では、第一次で取り扱った日本を含む6か国をテーマごとに比較して並べ替える活動を行う。この活動を通して、生徒が日本の食に関する課題を見つけることができるようにする。第三次では、第二次で見つけた課題を解決する方法についてグループごとに話し合う。このことにより、変化の激しい現代社会における諸問題を、環境面や経済面等、多面的、多角的に、自分事として捉え、どう解決すればよいか考えることができるようになる。と考える。</p> <p>生徒の卒業後の食環境は、進路により1人1人大きく異なるものとなることが予想される。本単元において、健康な生活や持続可能な生活とはどんな生活かを考え、行動するために必要な知識を身に付けることは、生徒にとって、実生活における実践意欲を育むことにつながり、大変意義深い。</p>			
6. 単元計画 (全3時間)			
時	ねらい	学習活動	資料等
事前	世界の人の生活への興味・関心を高める。	<p>【折り紙プロジェクト】※寄宿舎余暇活動時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭が教師海外研修でベトナムに行き、現地の小学生と交流する機会をもつことを知る。 ・ベトナムの小学生へプレゼントするために、千代紙を使って鶴や手裏剣等を折る。 ・ベトナムの小学生に聞きたいことや伝えたいことを手紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修プログラム日程表
1	日本と世界各国の食文化の違いを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの小学生が、折り鶴や手紙のプレゼントを喜ぶ様子の動画を見て、折り紙プロジェクトの活動内容を思い出す。 ・栄養教諭から単元の目標の話聞く。(話の内容) <p>「私は毎日給食を作っています。私が栄養士になりたての20年前に比べ、食材が手に入りにくくなっています。また、食材価格も値上がりし続けています。これらのことに危機感をもち、私は今年の夏休みに教師海外研修でベトナムに行き勉強してきました。日本以外の国がどんな食生活を送っているか見たかったからです。私がベトナムで見て感じたことをもとに、未来の日本の食について考えることができる授業を考えました。未来の日本の食について一緒に考えましょう。」</p> <p>【フォトランゲージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つのグループに分かれ、6か国の食卓の写真を見て気づいたことをできるだけたくさん書き出す。 ・グループごとに発表し、意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画(提供者:ハイフォン市児童文化会館配属、近藤允伸 JICA 海外協力隊隊員) ・教師海外研修で撮影したベトナムの風景や料理の写真 ・写真で学ぼう!地球の食卓学習プラン10(開発教育協会)

2	<p>健康な生活や持続可能な生活とはどんな生活か考え、日本の食の課題を見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージのワークシートを見ながら前時の学習内容をふり返る。 ・調べた6か国がどこにあるか世界地図から探して印をつける。 <p>【ランキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージで使った6か国の食卓の写真を、グループで話し合いながら、3つの発問に沿った順に並べ替える。 (発問1)「健康そうな順」 (発問2)「ごみがたくさん出そうな順」 (発問3)「30年後も続きそうな暮らしだと思う順」 ・グループごとに発表し、意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージワークシート ・世界地図 ・写真で学ぼう！地球の食卓学習プラン10（開発教育協会） ・地球儀
3 本時	<p>自分たちで見つけた課題の解決方法をさぐる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容（ランキング集計結果）をふり返り、自分たちで見つけた日本の食のよさや課題について確かめる。 (日本の食のよさ) ・安全 ・豊か ・食べ物がたくさんある ・健康な和食 ・便利 ・戦争がない (日本の食の課題) ・ごみがたくさん出る ・お金がかかる ・自然が他の国に比べて少ない <p>【ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する方法についてグループで話し合い、ワークシートにまとめる。 ・グループごとに発表し、意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージワークシート ・ランキングワークシート ・写真で学ぼう！地球の食卓学習プラン10（開発教育協会）

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<p>・前時の学習内容(ランキング集計結果)をふり返る。</p> <p>① 健康そうな国の順 インド⇒日本⇒チャド⇒ドイツ⇒中国⇒アメリカ (理由) ・家族が多いと楽しくて健康になりそう。 ・自然のものが多く健康そう。 ・日本の和食は健康にいい。 等</p> <p>② ごみがたくさん出そうな国の順 ドイツ⇒中国⇒アメリカ⇒日本⇒インド⇒チャド (理由) ・写真にびん、缶、ペットボトルがたくさんうつつていた。 ・チャドはあまりごみが出そうにない。 ・人口が多いとごみも増えそう。 等</p> <p>③ 30年後も続きそうな暮らしだと思ふ国の順 インド⇒中国⇒アメリカ⇒日本⇒ドイツ⇒チャド (理由) ・国土の広い国は作物がたくさんとれ、自給自足ができそう。 ・自然と向き合っている国は長続きしそう。 ・戦争がおきそうな国かどうか。 等</p> <p>・ランキング集計結果から、日本と他国の食生活を比べて見つけた日本の課題を確認し、本時の目標をつかむ。 ・家族が少ない。 ・ごみがたくさん出る。 ・国土がせまく、自給自足ができない。 ・自然が少ない。 ・お金がすぐなくなりそう。 ・加工品が多い。など</p>	<p>・日本と他国の相違点や類似点について生徒が想起しやすいよう、これまでの学習で使用したフォトランゲージ資料を掲示する。</p> <p>・この学習に正解はなく、自由な発想を進めることを確認することで、生徒が発言しやすい環境をつくる。</p>	電子黒板 タブレット フォトランゲージ資料

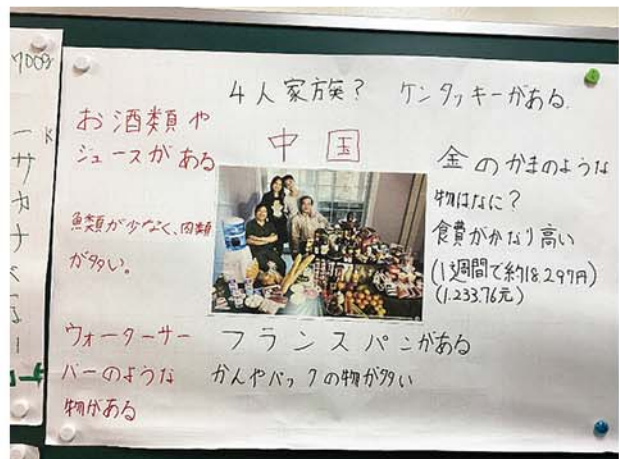
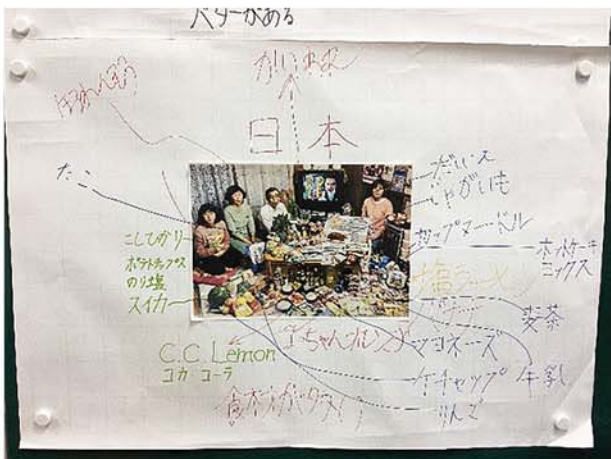
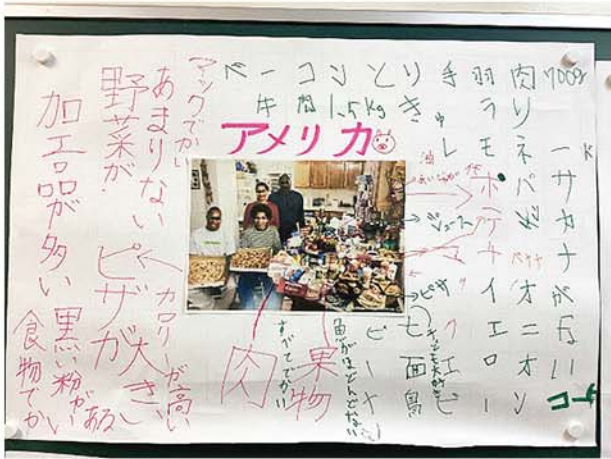
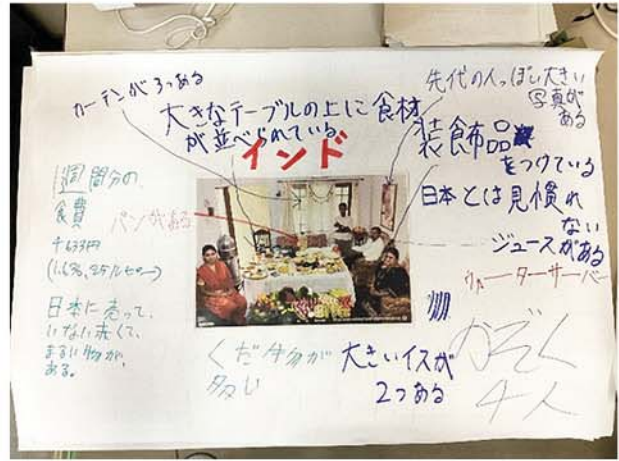
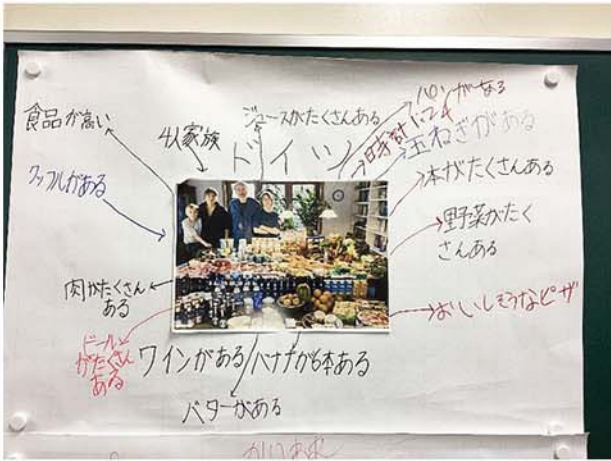
展開 (35分)	【ワークショップ】 ・自分で見つけた食の課題を解決する方法についてグループで話し合い、ワークシートにまとめる。	・生徒が見つけた課題について、課題解決方法となる部分を空欄にし、生徒自身が穴埋めをしながら考えることができるような形式のワークシートを準備する。	ワークシート ペン タブレット
まとめ (5分)	・グループごとに発表する。 ・他グループの発表を聞いた感想や意見を交流する。		
8. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） 発言、行動観察、ワークシート			
9. 学習方法および外部との連携 ・「世界の料理」給食で学習した国の料理を定期的に提供し、学習内容の定着を図る。 ・JICA九州スタッフ、NPO九州海外協力協会スタッフの方から授業参観した感想を生徒に伝えていただくことで、生徒たちの自己肯定感を高める。			
10. 学校内外で国際理解教育 ・授業実践を広める取り組み ・世界の料理給食レシピの情報発信・寄宿舍食堂への資料掲示			

【自己評価】

11. 苦勞した点	生徒の知識や経験等に差があるため、題材や評価基準を設定することが難しかった。指導を進めていく中で、生徒の反応を見ながら指導内容を都度修正、調整を行った。
12. 改善点	・「30年後も続けられそうな暮らしだと思国」というランキングテーマに対し、食べ物や飲み物がたくさんある国は長続きしそう、物が少ない国は長続きしなさそうという意見が多く挙がった。持続可能な暮らし方について考えるためのテーマだったが、生徒にとって理解しやすくなるよう、具体的にヒントを出したり、発問を工夫したりする必要があると感じた。 ・自分で見つけた課題解決方法の実現に向け、今後具体的な行動目標をたてるために、各教科・領域において指導を進める必要がある。
13. 成果が出た点	授業実践後、生徒から「アメリカに行ってハンバーガーをつくってみたい。」「メキシコの死者の日の祭りを実際に見てみたい。」等の発言があった。また、ワークショップのワークシートでは、課題解決方法として「ごみを減らす」「畑を増やす」「手料理、加工されていない食べ物の消費を増やす」等の意見が挙がった。これらのことから、本単元を通して、日本と他国の違いを見つけ、日本のよさや課題に気づき、よりよい食生活の実践方法について考えることができたといえる。

14. 学びの軌跡

① フォトランゲージ



② ランキング

「ごみが多い国」

「ランキング」

理由

「ごみが多い国」

「ランキング」

理由

「健康そうと思う」

「ランキング」

理由

「健康そうと思う」

「ランキング」

理由

「30年後も続いたら嫌な国と思う」

「ランキング」

理由

「30年後も続いたら嫌な国と思う」

「ランキング」

理由

③ ワークショップ

みつけた課題	解決方法	解決方法
① 自然のものが少ない。	⇒ 畑をふやす	⇒ 森を作る
② 家族が少ない。	⇒ 家族をふやす	⇒ 子どもをふやす
③ 加工品が多い。	⇒ 手料理、生やさいや加工、お肉を	⇒ 火田を作る、刈り取りに行く
④ ピン、缶、紙パックごみがたくさんある。	⇒ ゴミをへらす	⇒ ゴミ箱にちゃんとすてポイ捨てしない
⑤ ペットボトルが多い。	⇒ ペットボトルをへらす	⇒ 再利用をする またリサイクル箱
⑥ 国土がせまく、自給自足ができない。	⇒ 畑をふやす	⇒ 国を作る
⑦ お酒やお菓子がたくさんあり、お金がすぐなくなりそう。	⇒ 消費税を少なくする ← 日本は	⇒ 友達や家族にプレゼントしてもらい人にたかる。

みつけた課題	解決方法	解決方法
① 自然のものが少ない。	⇒ 野菜と自給 自然環境を良くして自然を育てる	⇒ 自然を大七かにする (何をよくしない) 海の豊かさを守ろう。
② 家族が少ない。	⇒ 子育て支援の仕組みを整える 収入を増やす	⇒ 家族みんなで大七かにする。 (とくにいばこをしない 命を大七かにする)
③ 加工品が多い。	⇒ 食品ロス削減 食べ物を食べ	⇒ 自然、ゆらいから出来る4冊を使う。
④ ピン、缶、紙パックごみがたくさんある。	⇒ 分別して出す 分別して出す	⇒ そのままにするとか、てしまつから次に食べて しまえば 並にしなくてよくなる。
⑤ ペットボトルが多い。	⇒ ペットボトルの回収機を増やす 水筒を使う	⇒ 環境を大七かにする。
⑥ 国土がせまく、自給自足ができない。	⇒ 道の駅を設けて 観光させる	⇒ 他の国から専輸入する。
⑦ お酒やお菓子がたくさんあり、お金がすぐなくなりそう。	⇒ 貯蓄 節約	⇒ あまりお酒やお菓子を買いすぎないよ うにする。

【参考資料】

- ・知ってる？日本の食料事情 2022 (農林水産省)
- ・クッキング自給率 (計算ソフト) (農林水産省)
- ・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら【第6版】
(認定特定非営利活動法人 開発教育協会)
- ・写真で学ぼう！「地球の食卓」学習プラン10 (認定特定非営利活動法人 開発教育協会)
- ・フードマイレージどこからくる？私たちの食べ物ー
(認定特定非営利活動法人 開発教育協会)
- ・家庭703 フードデザイン (実教出版)
- ・教師国内研修 報告書&ワークショップ集 (JICA九州・JICA沖縄)

2023 年度（令和 5 年度）
JICA 九州 教師海外研修

発行 2024 年 3 月

【 発 行 者 】

独立行政法人国際協力機構 九州センター（JICA 九州）

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1

TEL 093-671-8678

<https://www.jica.go.jp/kyushu/>

【 事 業 受 託 者 】

特定非営利活動法人 九州海外協力協会

〒812-0025 福岡県福岡市店屋町 4-8 蝶和ビル 503

TEL 092-710-5310



2023 年度（令和 5 年度）

**JICA 九州 教師海外研修
報告書**

発行 2024 年 3 月

【発行者】

独立行政法人国際協力機構 九州センター（JICA 九州）

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1

TEL 093-671-8678 / FAX 093-671-0979

【研修実施団体】

特別非営利活動法人 九州海外協力協会（NPO 九州）

〒812-0025 福岡県福岡市博多区店屋町 4-8 蝶和ビル 503

TEL 092-710-5310 / FAX 092-710-5304